CA92276-8472-02

Windows Small Business Server 2008 導入ガイド

2009 年 12 月

富士通株式会社

改訂履歴

改版日時	版数	改版内容
2009.03	1.0	新規作成
2009．12	1.1	Windows Small Business Server 2008 SP2 に対応

目次

はじめに

本書は、富士通 PC サーバ PRIMERGY に Windows Small Business Server 2008 を構築する手順を紹介します。Windows Small Business Server 2008 を導入することで、一般的に業務で必要とされる認証基盤や情報共有インフラ(メールサーバ、社内 Web サイト、共有フォルダ)を迅速かつ安価に構築できます。

※Windows Small Business Server 2008 のサポート機種、留意事項については、以下の情報を参照してください。

- Microsoft® Windows Server® 2008 の動作確認情報
  http://primeserver.fujitsu.com/primergy/software/windows/os/2008/
- Microsoft® Windows Server® 2008 SP2 の動作確認情報
  http://primeserver.fujitsu.com/primergy/software/windows/os/2008-sp2/
- システム構成図(価格表)「サポート OS」参照
  http://primeserver.fujitsu.com/primergy/system.html

本書では、以下の略称を使用することがあります。

	正式名称	略称
製品名	Microsoft® Windows Server® 2008	Windows Server 2008
	Microsoft® Windows® Small Business Server 2008	Windows Small Business Server 2008
	Microsoft® Windows® XP	Windows XP
	Microsoft® Windows Vista®	Windows Vista
	Microsoft® Exchange Server 2007	Exchange Server 2007
	Microsoft® SQL Server™ 2008 Standard for Small Business	SQL Server 2008 Standard for Small Business
サービス	Microsoft® Windows® SharePoint® Services	Windows SharePoint Services
	Microsoft® Windows Server® Update Services	WSUS
ドメイン	ドメインコントローラ	DC
	Active Directory®	AD
	Microsoft® Windows Server® 2008 Active Directory®のドメイン	Windows Server 2008 ドメイン
	Microsoft® Windows® Small Business Server 2008 Active Directory®のドメイン	Windows Small Business Server 2008 ドメイン

1 Windows Small Business Server 2008 とは?

Windows Small Business Server 2008 は、中小規模の環境で「PC のネットワーク管理」を始める場合に必要なミドルウェアをパッケージングし、導入・運用の簡素化を可能としたサーバ OS です。OS のインストール完了後に簡単なセットアップを行うだけで、認証基盤やメール、セキュリティパッチ管理など、運用に必要なサーバ機能をすぐに利用できます。Windows Small Business Server 2008 は主に以下の特徴を持っています。

- Windows Server 2008 Standard を基盤とした OS
- 75 台までの PC をネットワーク管理する中小規模の環境向け
- 独自の管理コンソールによって運用管理を効率化

1.1 Windows Server 2008 Standardを基盤としたOS

Windows Server 2008 Standard のテクノロジーを利用して、IT インフラ基盤が構築されます。AD を利用したドメイン認証基盤やファイルサーバの構築、さらに Windows サーババックアップによる障害対策などが可能です。

さらに、Windows Server 2008 での導入に実績がある Exchange Server 2007、WSUS、Windows SharePoint Services などの製品が含まれており、安心して利用いただけます。

1.2 75 台までのPCをネットワーク管理する中小規模の環境向け

Windows Small Business Server 2008 は、最大 75 クライアントで利用するように設計されています。シングルドメイン構成での運用のみサポートするため拡張性はありませんが、インストール後にほとんどの設定が完了しているため、設計・構築に工数がかからず、早期に IT インフラを立ち上げることができます。

1.3 独自の管理コンソールによって運用管理を効率化

Windows Small Business Server 2008 独自の管理コンソール「Windows SBS Console」を利用して効率よく運用管理が行えます。Windows SBS Console では、ドメインのアカウント管理、共有フォルダ管理、パッチ適用監視など、多くの運用管理作業を 1 つのコンソールから行えます。

図 1 Windows SBS Console 画面

2　Windows Small Business Server 2008 で提供される機能

Windows Small Business Server 2008 には、以下の機能が含まれます。

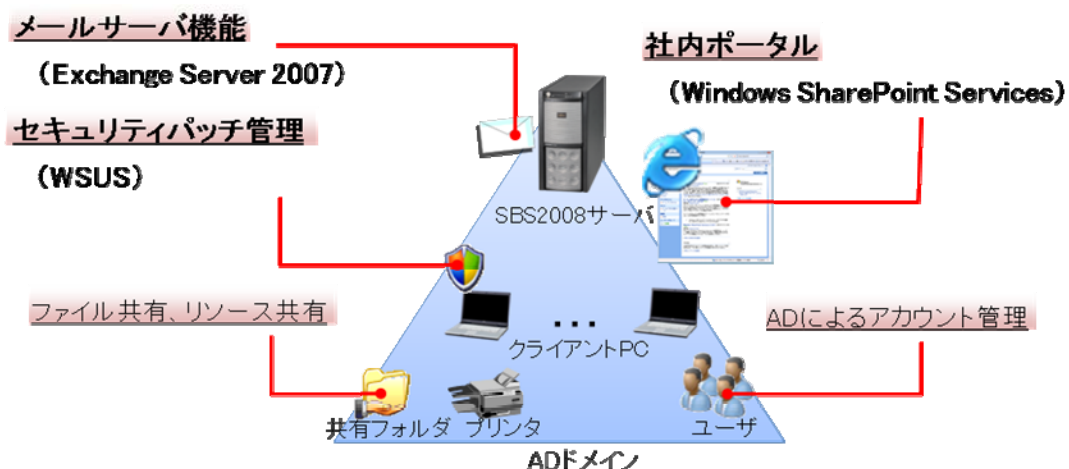



図 2　Windows Small Business Server 2008 に含まれる機能

※Windows Small Business Server 2008 Premium では、上記に加えて以下の機能が提供されます。

・SQL Server 2008 Standard for Small Business

※120 日間評価版として、以下の機能が提供されます。

・Microsoft® Forefront™ Security for Exchange Server

3 構築手順

本章では、Windows Small Business Server 2008 のインストールから初期設定までの手順を紹介します。

3.1 システム要件の確認

構築を行う前に、表 1 のシステム要件を満たすことを確認してください。

表 1 Windows Small Business Server 2008 システム要件

	Standard サーバ/ Premium1台目サーバ	Premium2台目サーバ
CPU	Intel Xeon/Pentium/Celeron ファミリまたは、互換性のあるプロセッサを推奨（2GHz 以上推奨）	
メモリ	最小：4GB 最大：32GB	推奨：2GB 以上 （32-bit の場合、最大 4GB） （64-bit の場合、最大 32GB）
ハードディスク容量	60GB 以上	最小：10GB 推奨：40GB
DVD ドライブ	1 台	
ネットワークアダプタ	10/100 イーサーネットアダプタ（1 台）	
モニタ、ビデオアダプタ	Super VGA(SVGA)モニタ 800×600 以上のビデオアダプタ	
ネットワークデバイス	IPv4NAT または IPv6 をサポートするルーター（1 台）	
オプショナルネットワークデバイス	インターネットサービスプロバイダに要求されるデバイス。クライアントコンピュータ。 （Windows XP Professional(SP2)または Windows Vista 推奨。） ローカルネットワークに接続するスイッチ。（1 台以上）	
サポートするクライアント OS	Windows XP Professional Edition SP2 以降 Windows Vista Enterprise、Ultimate Windows Mobile 5.0 以降	

POINT!

※プロセッサ、メモリ、ハードディスク容量がシステム要件を満たさない場合、インストールが中断します。

※バックアップは Windows Server バックアップで取得します。システムが使用するハードディスクとは別に、バックアップ用のハードディスクを用意する必要があります。

3.2 構築の流れ

富士通 PC サーバ PRIMERGY に、Windows Small Business Server 2008 Standard、または Premium を構築するまでの流れを紹介します。

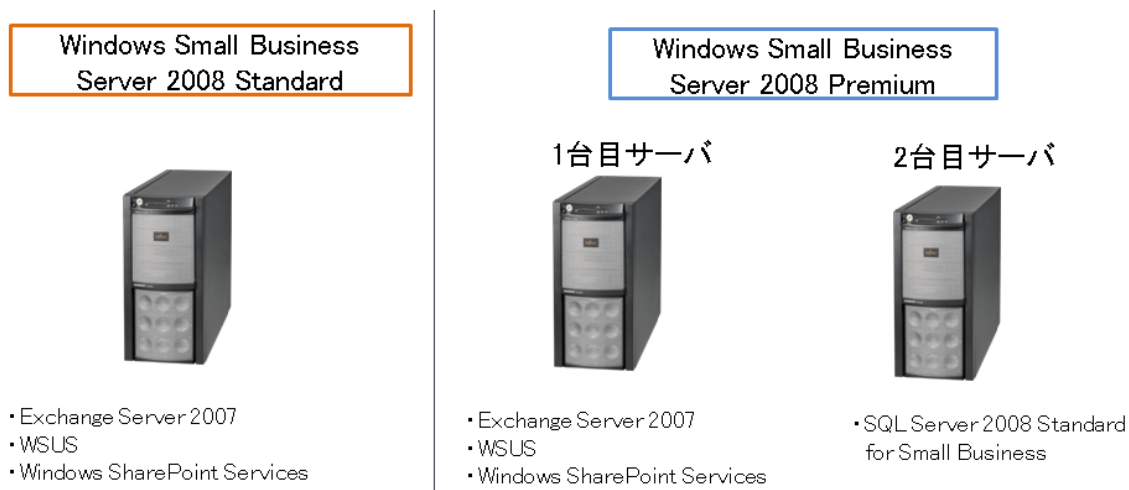



図 3　Standard、Premium のサーバ構成

Windows Small Business Server 2008 Standard は 1 台のサーバ、Premium は 2 台のサーバで構成されます。Standard のサーバと Premium の 1 台目サーバの役割は同等であり、構築手順も同じです。Premium を構築する場合は、Standard と同様の手順で 1 台目サーバを構築し、その後 2 台目サーバを構築します。

図 4 に Windows Small Business Server 2008 構築の流れを示します。

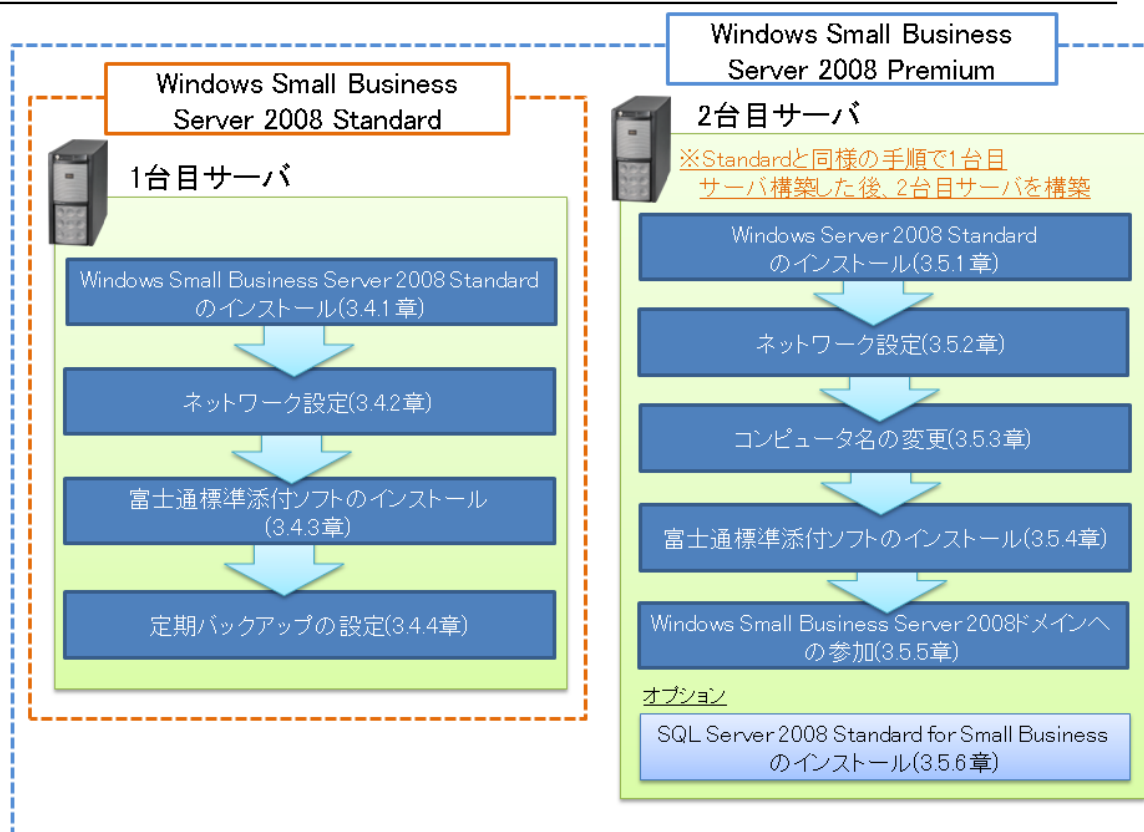



図 4　Windows Small Business Server 2008 構築の流れ

各手順の詳細は、対応する章を参照してください。

3.3 構築環境

本書では、以下の環境を構築する手順を紹介します。

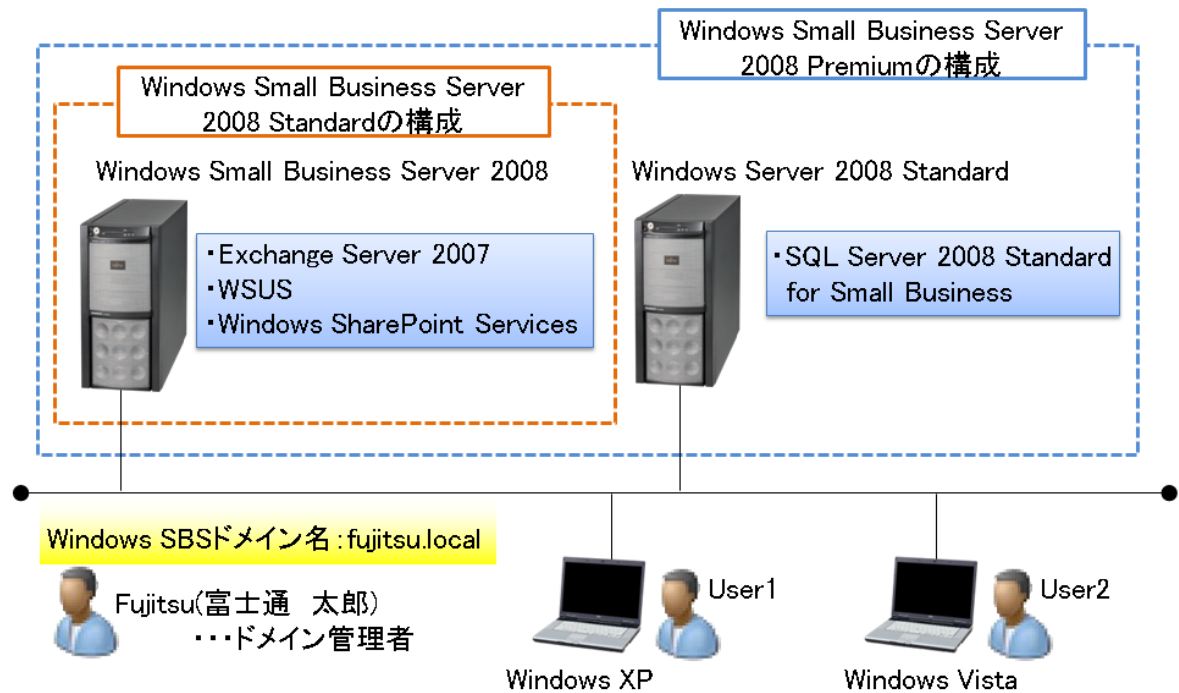



図 5　Windows Small Business Server 2008 構築環境

■Windows Small Business Server 2008

項目	値
サーバ名	SBS2008-01
IP アドレス	192.168.1.10
サブネットマスク	255.255.255.0
DNS	192.168.1.10

■Windows Server 2008 Standard

項目	値
サーバ名	SBS2008-02
IP アドレス	192.168.1.20
サブネットマスク	255.255.255.0
DNS	192.168.1.10

■Windows XP(クライアント)

項目	値
サーバ名	XP-01
IP アドレス	192.168.1.110
サブネットマスク	255.255.255.0
DNS	192.168.1.10

■Windows Vista(クライアント)

項目	値
サーバ名	Vista-01
IP アドレス	192.168.1.120
サブネットマスク	255.255.255.0
DNS	192.168.1.10

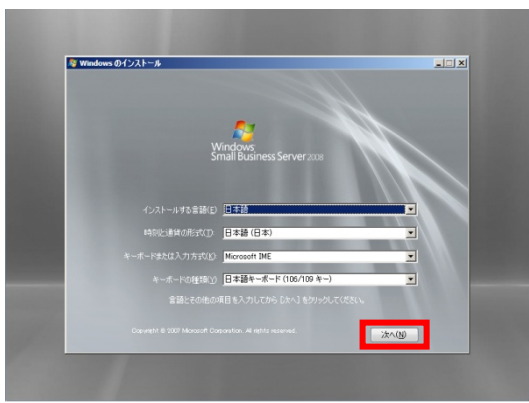
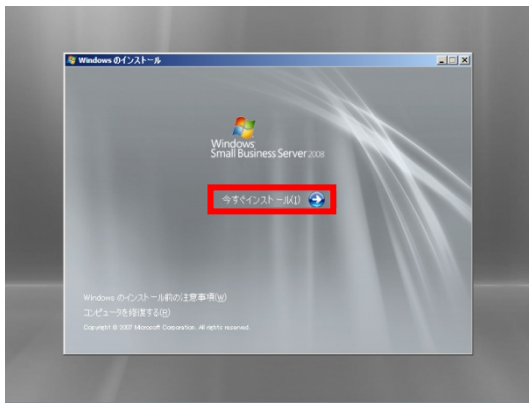
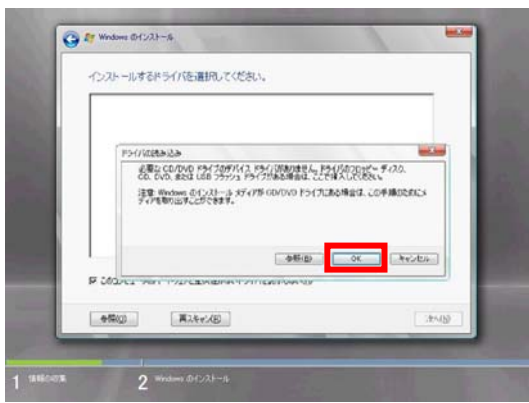
3.4 Windows Small Business Server 2008 Standardの構築

Windows Small Business Server 2008 Standard は、「Exchange Server 2007」、「WSUS」、「Windows SharePoint Services」など主な機能が OS のインストールと同時にインストールされます。これらの機能を別途インストールする必要はありません。

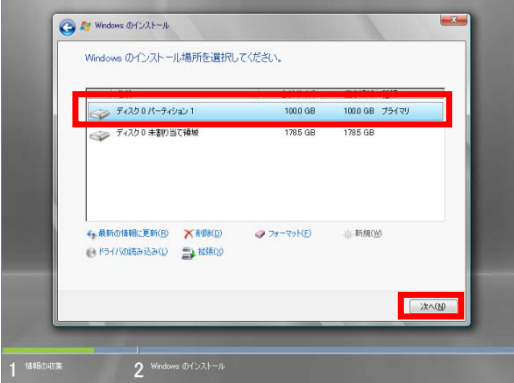
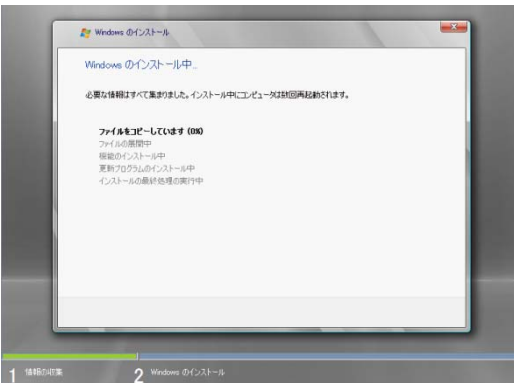
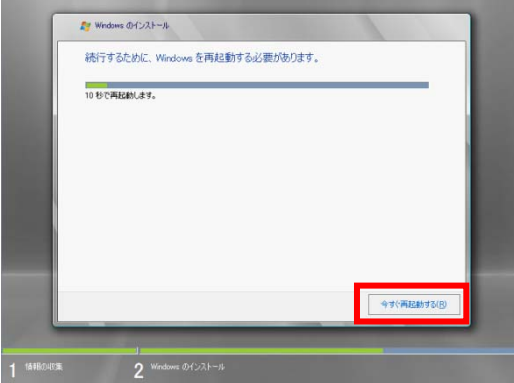
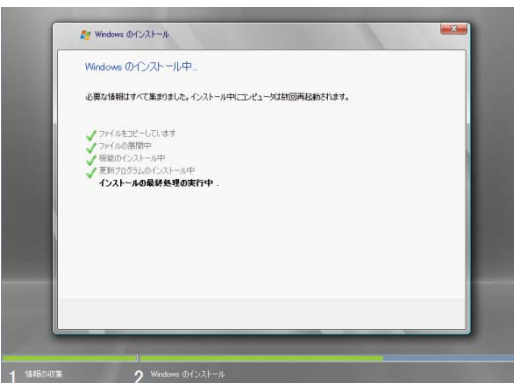
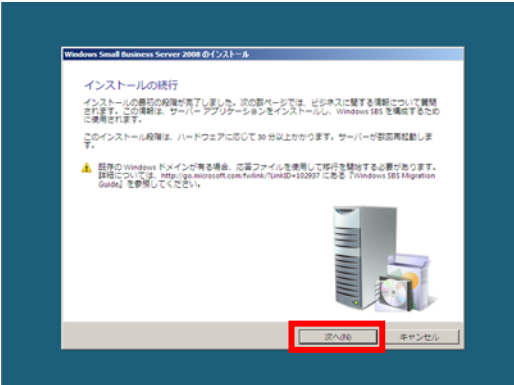
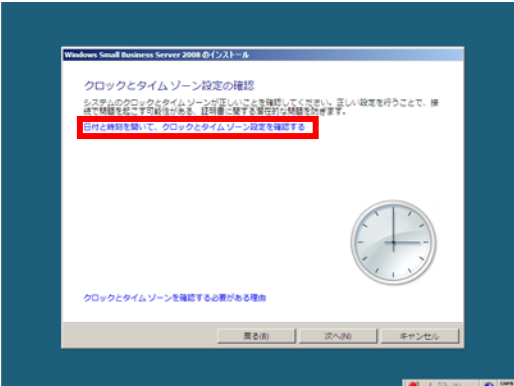
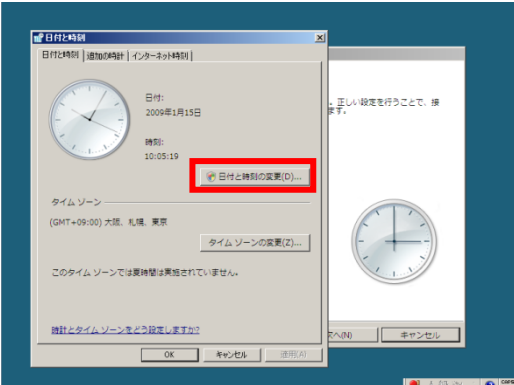
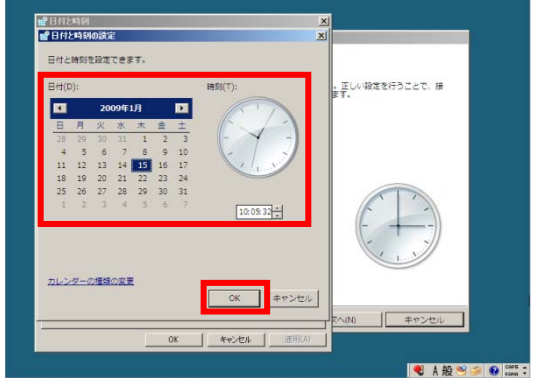
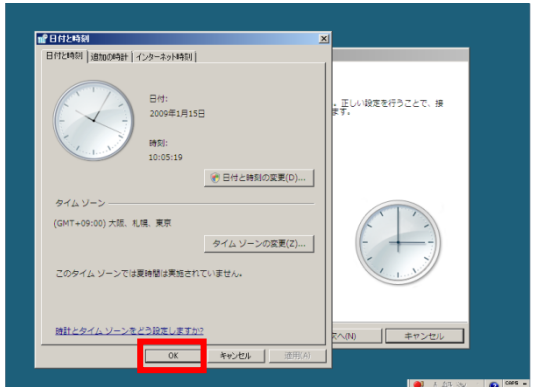
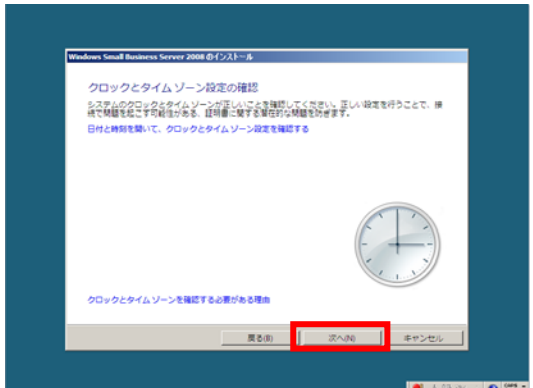
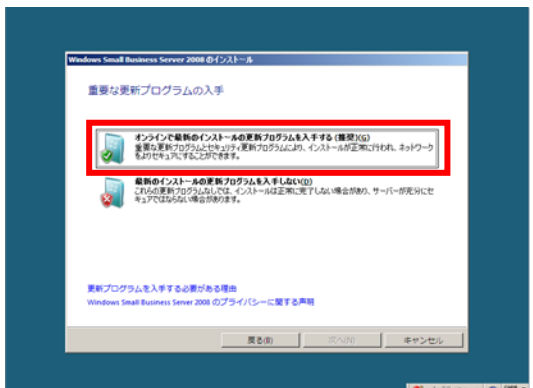
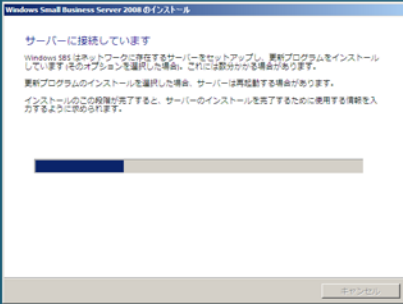
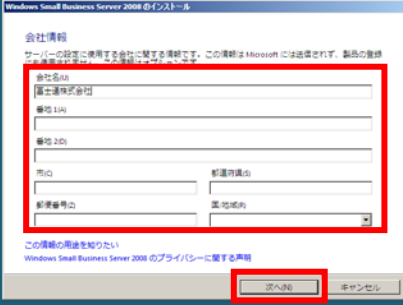
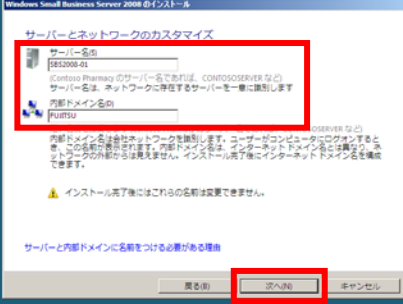
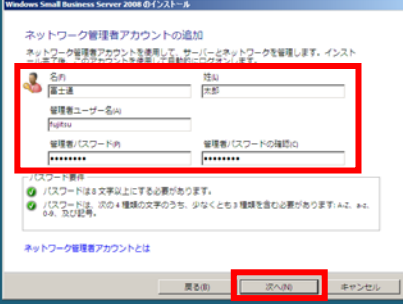
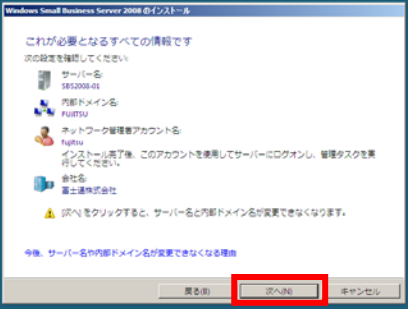
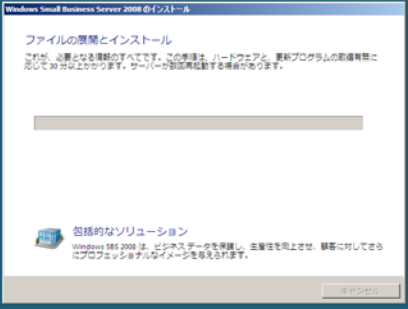
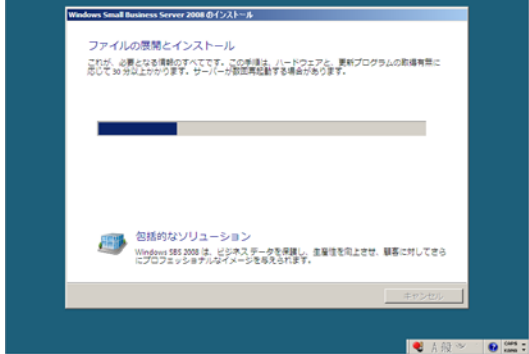
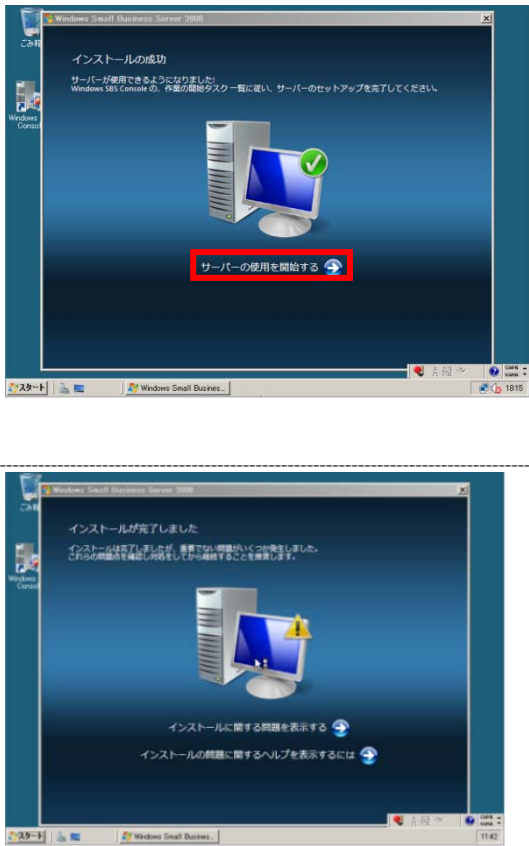
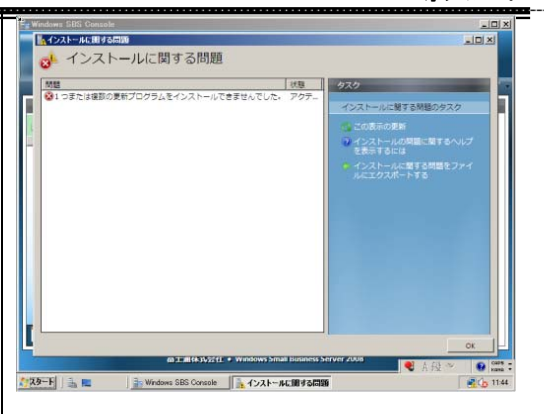
OS のインストール後にネットワーク設定、バックアップ設定、さらにサーバの信頼性向上のため、富士通 PC サーバ PRIMERGY 添付ソフトのインストールを行うことで Windows Small Business Server 2008 Standard の構築が完了します。

※富士通 PC サーバ PRIMERGY 添付ソフトは、手動インストールする必要があります。添付ソフトの一括インストールソフト「PowerUp Gear」は使用できません。

3.4.1 Windows Small Business Server 2008 Standardのインストール

Windows Small Business Server 2008 のインストール DVD Disc1 を利用してインストールを開始します。インストール時に「サーバ名」、「ドメイン名」の入力が必要であり、これらの情報はインストール後に変更できません。インストール開始前に入力する名前を決定しておくことをお勧めします。

●本手順は SBS2008-01 で行います。　●所要時間は約 100 分です。

※目安として、インストール開始約 5 分後と 30 分後に手動で情報を入力する必要があります。

約　5 分後・・・・手順 5～手順 12

約 30 分後・・・・手順 17～手順 28

<table>
<tr><td>1</td><td colspan="2">サーバの電源を ON にします。</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="2">DVD ドライブに Windows Small Business Server 2008 のインストール DVD Disc1 を挿入します。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>「System Console」画面が表示されます。</td><td>
</td></tr>
</table>

4	「Press any key to boot from CD or DVD.」画面が表示されます。キーボードの任意のキーを押下します。	
5	「Windows のインストール」画面が表示されます。 「次へ」をクリックします。	
6	「今すぐインストール」画面が表示されます。 「今すぐインストール」をクリックします。	
7	「インストールするドライバを選択してください。」画面と「ドライバの読み込み」画面が表示されます。「ドライバの読み込み」画面の「OK」をクリックします。 ※機種によってはこの画面が表示されず、手順 10 に進む場合があります。	

8	「フォルダの参照」画面が表示されます。DVD ドライブのドライバが格納されているフォルダを選択します。「OK」をクリックします。 ※あらかじめフロッピーディスクまたは、リムーバブルディスクにコピーした DVD ドライブのドライバを選択します。 ※DVD ドライブのドライバは、「アレイコントローラ ドキュメント＆ツールCD」の「CDROOT」－「Drivers」－「MegaSR」－「W2K8x64」フォルダに格納されています。「アレイコントローラ ドキュメント＆ツールCD」は、以下 URL よりダウンロード可能です。 http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/	
9	「インストールするドライバを選択してください。」画面で DVD ドライブのドライバを選択します。「次へ」をクリックします。	
10	「ライセンス認証のためのプロダクトキーの入力」画面が表示されます。「プロダクト キー」にプロダクトキーを入力します。 「次へ」をクリックします。	

11	「ライセンス条項をお読みください。」画面が表示されます。「条項に同意します」にチェックを入れます。 「次へ」をクリックします。	
12	「インストールの種類」画面が表示されます。 「カスタム(詳細)」をクリックします。	
13	「Windows のインストール場所を選択してください。」画面が表示されます。 「新規」をクリックします。	
14	「サイズ」に Windows Small Business Server 2008 をインストールするパーティションのサイズを入力します。 「適用」をクリックします。 ※Windows Small Business Server 2008 のハードディスク必要最小容量は 60GB(61440MB)以上です。 ※Service Pack 適用などによる将来的なディスク容量肥大を見越してサイズを決定してください。	

15	作成したパーティションをポイントします。 「次へ」をクリックします。	
16	「Windows のインストール中…」画面が表示されます。	
17	「続行するために、Windows を再起動する必要があります。」画面が表示されます。 「今すぐ再起動する」をクリックします。 ※「今すぐ再起動する」をクリックしない場合、10 秒後に自動で再起動します。 ※起動時はハードディスクから起動します。	
18	「Windows のインストール中…」画面が表示されます。	

19	サーバが再起動します。 ※起動時はハードディスクから起動します。	
20	「インストールの続行」画面が表示されます。 「次へ」をクリックします。	
21	「クロックとタイムゾーン設定の確認」画面が表示されます。 「日付と時刻を開いて、クロックとタイムゾーン設定を確認する」をクリックします。	
22	「日付と時刻」画面が表示されます。 「日付と時刻」タブの「日付と時刻の変更」をクリックします。	

23	「日付と時刻を設定できます。」画面が表示されます。日付と時刻をそれぞれ設定します。 「OK」をクリックします。	
24	「OK」をクリックします。	
25	「クロックとタイムゾーン設定の確認」画面で「次へ」をクリックします。	
26	「重要な更新プログラムの入手」画面が表示されます。 「オンラインで最新のインストールの更新プログラムを入手する(推奨)」をクリックします。	

27	「サーバーに接続しています」画面が表示されます。	
28	「会社情報」画面が表示されます。各項目に情報を入力します。 「次へ」をクリックします。	
29	「サーバーとネットワークのカスタマイズ」画面が表示されます。「サーバー名」、「内部ドメイン名」を入力します。 ※インストール完了後、上記の情報は変更できません。 「次へ」をクリックします。	
30	「ネットワーク管理者アカウントの追加」画面が表示されます。「名」、「姓」、「管理者ユーザー名」、「管理者パスワード」、「管理者パスワードの確認」を入力します。 「次へ」をクリックします。	

31	「セキュリティ サービスのインストール」画面が表示されます。以下の製品名のチェックボックスにチェックを入れると、120 日間の評価版を使用できます。 ・Microsoft Forefront Security for Exchange Server 「次へ」をクリックします。 ※富士通では、上記製品をサポートしません。
32	「これが必要となるすべての情報です」画面が表示されます。 「次へ」をクリックします。
33	「ファイルの展開とインストール」画面が表示されます。
34	サーバが再起動します。 ※起動時はハードディスクから起動します。

35	「ファイルの展開とインストール」画面が表示されます。	
36	サーバが再起動します。 ※起動時はハードディスクから起動します。	
37	「インストールの成功」画面が表示されます。「サーバの使用を開始する」をクリックします。	
	【参考情報】 インストール過程で問題があった場合は、右の画面が表示されます。 「インストールに関する問題を表示する」をクリックして、表示される問題を確認してください。	

	※インターネットに接続していない場合は、更新プログラムがインストールできなかった旨のエラーが表示されることがあります。インストール完了後にインターネットに接続し、更新プログラムを取得/適用すれば問題ありません。	

※Windows Small Business Server 2008 インストール後に、以下 URL で紹介されているイベントが発生する場合があります。

・マイクロソフト社「Windows SBS 2008 Known Post Installation Event Errors」(英語)

http://support.microsoft.com/kb/957713/en-us

以上で、Windows Small Business Server 2008 Standard のインストールが完了します。

3.4.2 ネットワーク設定

Windows Small Business Server 2008 は、インストール時にルータなどのネットワーク構成を検出して、自動的に静的 IP アドレスと優先 DNS が設定されます。

また、Windows Small Business Server 2008 には、インターネット接続を前提とした機能が多く含まれます。お客様の導入環境に合わせてインターネット接続を設定してください。インターネット接続の設定は、Windows SBS Console の「ホーム」タブ−「インターネットへの接続」をクリックすると、「インターネットへの接続」ウィザードが開始します。

※自動的に設定された静的 IP アドレスも、「インターネットへの接続」ウィザードで変更できます。

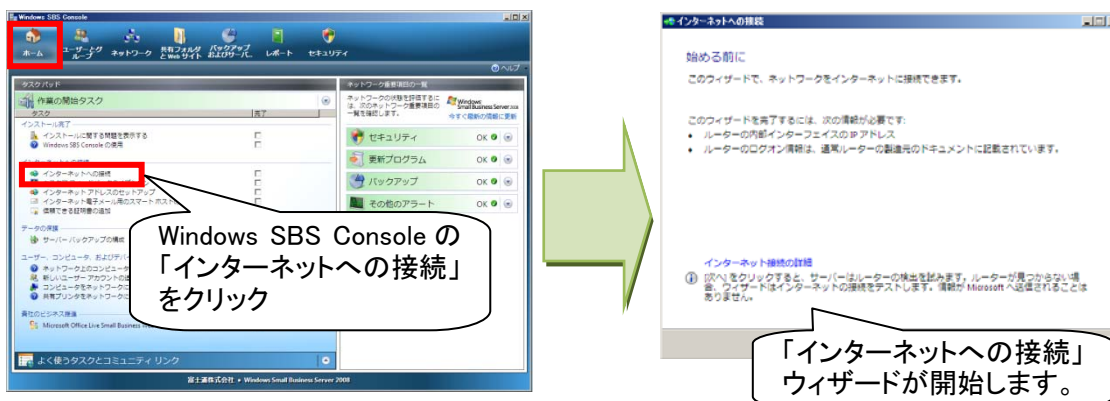



図 6 インターネットへの接続設定

3.4.3 富士通標準添付ソフトのインストール

サーバの信頼性向上のために、富士通標準添付ソフトを手動でインストールします。富士通標準添付ソフトのインストール手順は Windows Server 2008 と同様ですが、”高信頼ツールの一括導入”ツール「PowerUp Gear」はサポートされておりません。富士通添付ソフトに含まれる各ツールを個別にインストールする必要があります。

インストールの詳細な手順は以下 URL を参照してください。

・PRIMERGY サーバ本体のマニュアル一覧

http://primeserver.fujitsu.com/primergy/manual/

→ご使用の機種(発表時期)をクリックします。

→「ソフトウェアガイド」または「ユーザーズガイド」を参照してください。

また、以下のツールについては、追加の留意事項・インストール手順があります。

【ServerView Console、ServerView Agent】

ServerView Console のインストール及びアンインストールを行う際には、レジストリに以下のキーを設定してください。設定を有効にするには、システムの再起動が必要です。

・キー：HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥FileSystem

・値の名前　：NtfsDisable8dot3NameCreation

・値の種類　：REG_DWORD

・値のデータ：0

※ServerView の版数が 4.80.xx 以降の場合、レジストリ変更のメッセージが表示されます。

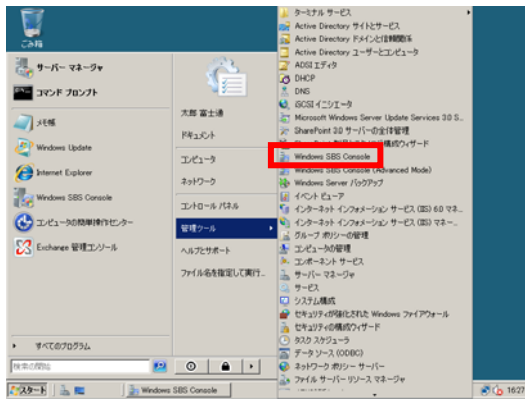
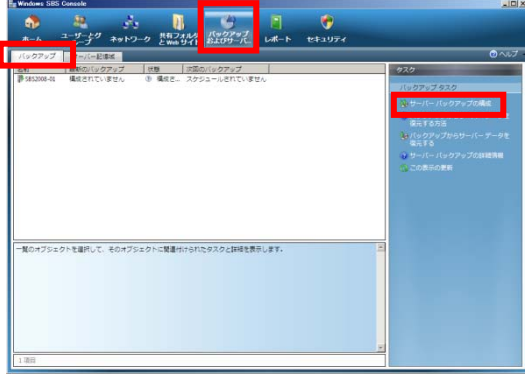
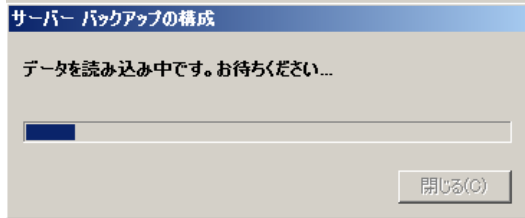
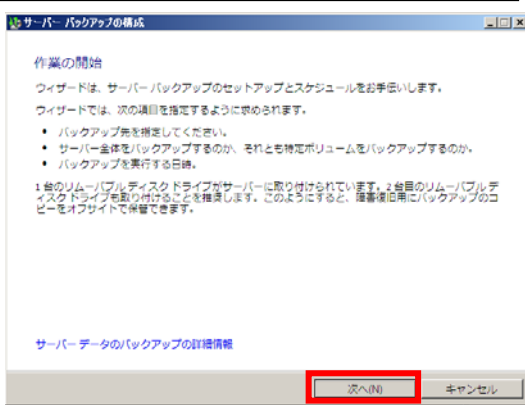
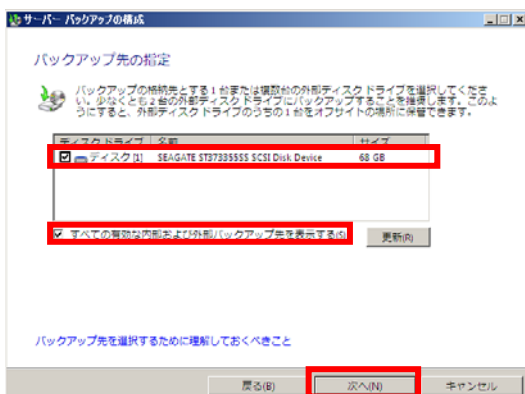
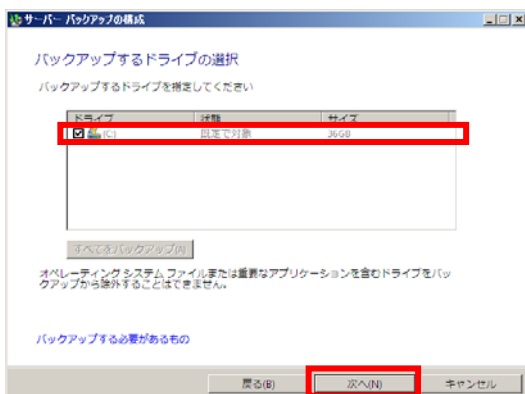
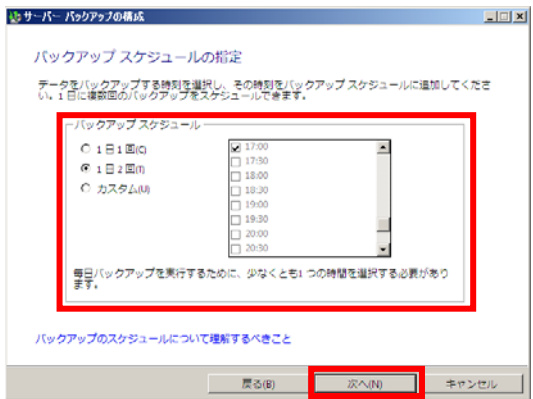
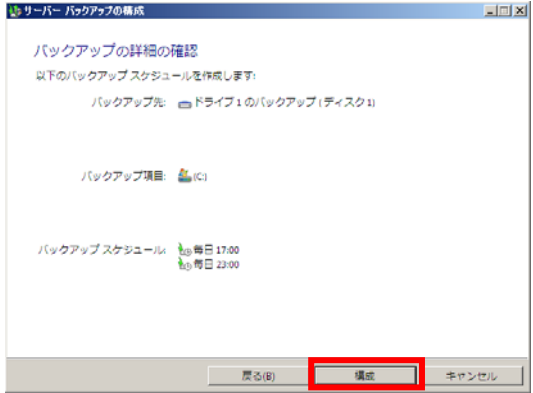
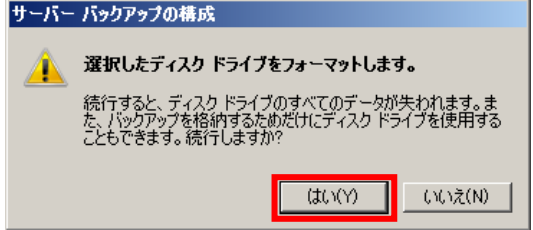
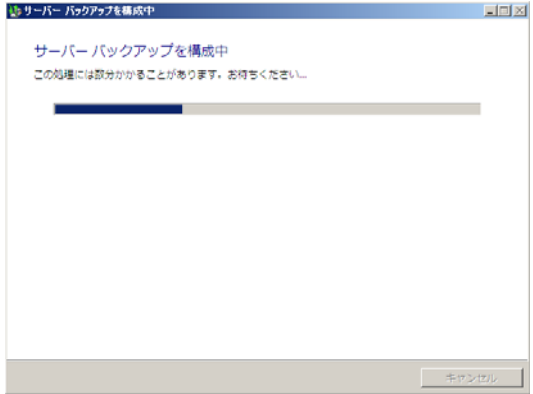
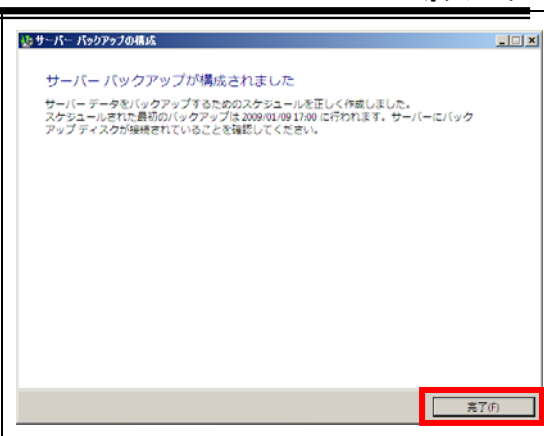
※ServerView Console のインストール完了後、及びアンインストール完了後は、値のデータを”1”に戻すことができます。

※レジストリを誤って変更すると、深刻な問題が発生することがあります。レジストリを編集する際には十分に注意してください。万一に備えて、編集の前にレジストリをバックアップしておくと、問題が発生した場合にレジストリを復元することができます。

【ServerView RAID】

ServerView RAID のインストールを行う際は、UAC(User Access Control)を無効にする必要があります。UAC を無効にする手順については以下 URL を参照してください。

・マイクロソフト社「User Account Control Step-by-Step Guide」(英語)

http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc709691.aspx

【Intel® PROSet】

「チーム化（チーミング）」、「VLAN」構成はサポートしません。

3.4.4 定期バックアップの設定

Windows SBS Console のウィザードを使用して、Windows Small Business Server 2008 を定期的にバックアップする設定を行います。

●本手順は SBS2008-01 で行います。　●所要時間は約 5 分です。

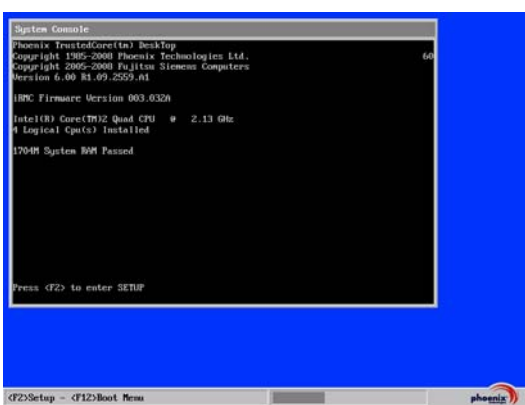
1	「スタート」→「管理ツール」→「Windows SBS Console」をクリックします。	
2	「Windows SBS Console」画面が表示されます。「バックアップおよびサーバー記憶域」タブをクリックします。「バックアップ」タブを開き、右ペインの「サーバーバックアップの構成」をクリックします。	
3	「データを読み込み中です。お待ちください...」画面が表示されます。	

<table>
<tr>
<td>4</td>
<td>「作業の開始」画面が表示されます。
「次へ」をクリックします。</td>
<td>
</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>「バックアップ先の指定」画面が表示されます。バックアップの格納先のディスクドライブにチェックを入れます。
「次へ」をクリックします。
※内部ディスクにバックアップを格納する場合は、「すべての有効な内部および外部バックアップ先を表示する」にチェックを入れます。</td>
<td>
</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>「バックアップ先ドライブのラベル」画面が表示されます。ディスクのラベルを入力します。
「次へ」をクリックします。</td>
<td>
</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>「バックアップするドライブの選択」画面が表示されます。バックアップするドライブにチェックを入れます。
「次へ」をクリックします。</td>
<td>
</td>
</tr>
</table>

8	「バックアップ スケジュールの指定」画面が表示されます。バックアップスケジュールを選択します。 「次へ」をクリックします。 ※既定では、1 日 2 回(17:00 と 23:00)のバックアップが設定されています。	
9	「バックアップの詳細の確認」画面が表示されます。 「構成」をクリックします。	
10	「選択したディスク ドライブをフォーマットします。」画面が表示されます。 「はい」をクリックします。	
11	「サーバー バックアップを構成中」画面が表示されます。	

12	「サーバー バックアップが構成されました」画面が表示されます。 「完了」をクリックします。	サーバー バックアップの構成 サーバー バックアップが構成されました サーバー データをバックアップするためのスケジュールを正しく作成しました。 スケジュールされた最初のバックアップは 2009/01/09 17:00 に行われます。サーバーにバックアップ ディスクが接続されていることを確認してください。 完了(F)

以上で、バックアップの設定が完了します。

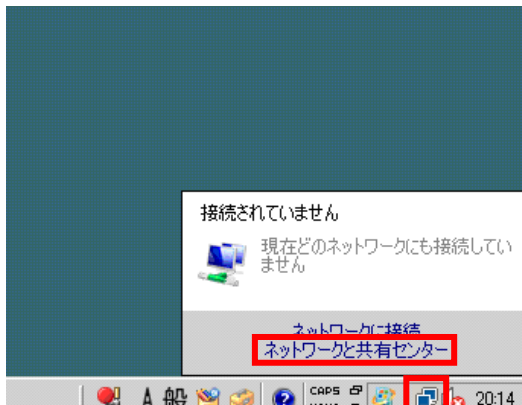
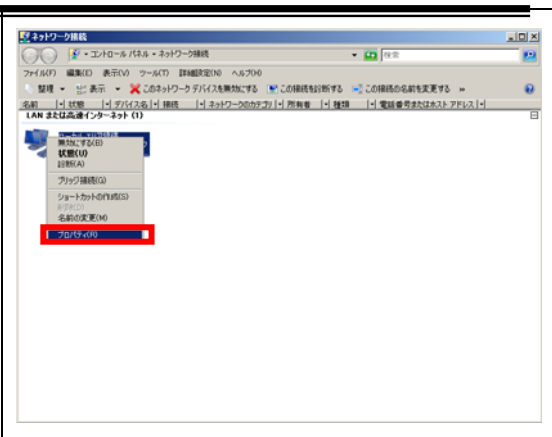
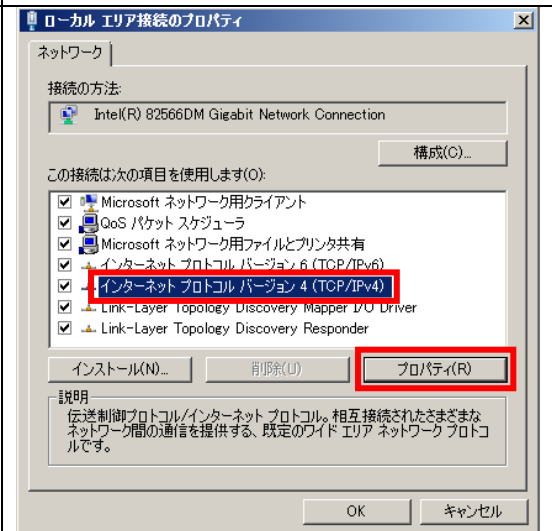
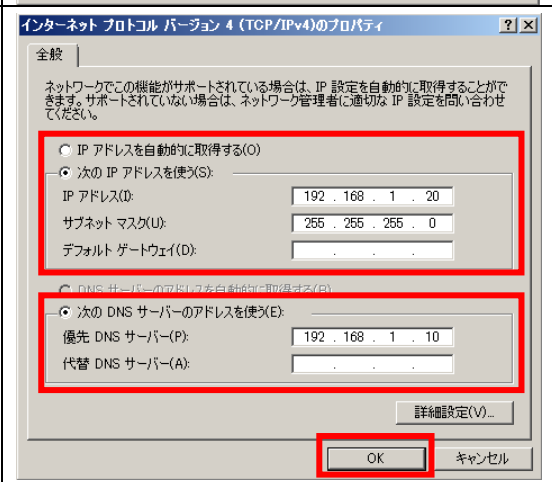
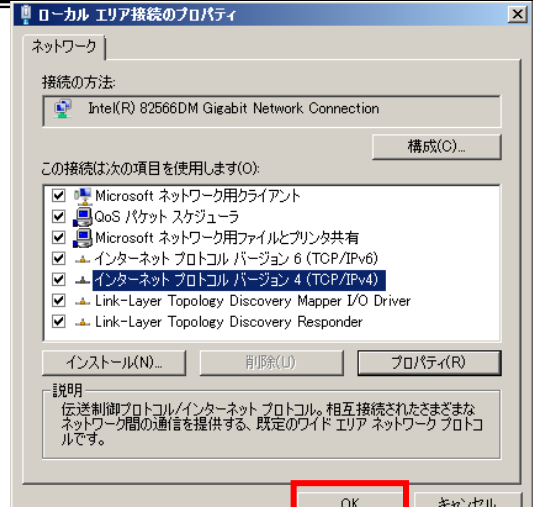
以上で、Windows Small Business Server 2008 Standard の構築が完了します。

3.5 Windows Small Business Server 2008 Premiumの構築

Windows Small Business Server 2008 Premium を構築する場合、まず「3.3 章 Windows Small Business Server 2008 Standard の構築」と同じ手順で 1 台目サーバを構築します。1 台目サーバ構築後、以下の手順で 2 台目サーバを構築します。

3.5.1 Widows Server 2008 Standardのインストール

Windows Small Business Server 2008 の 2 台目サーバには、Windows Server 2008 Standard をインストールします。32-bit または、64-bit のどちらかを選択してインストールします。

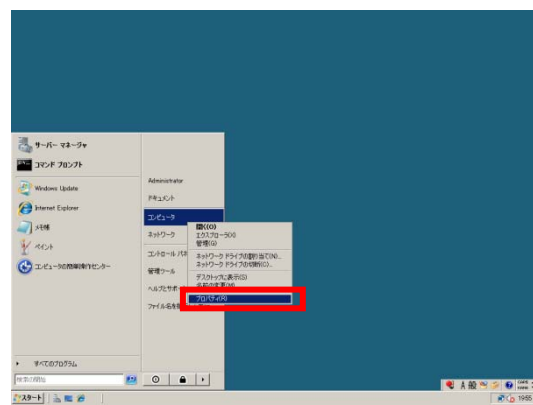
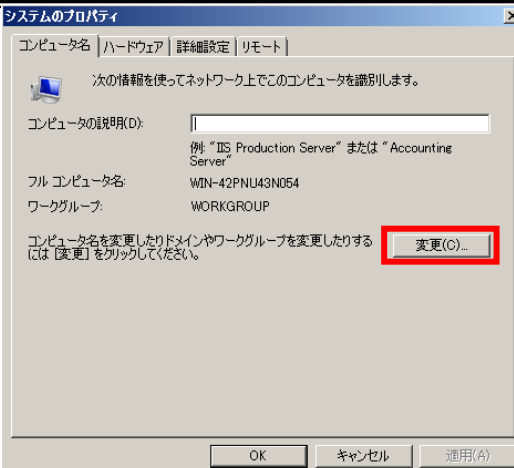
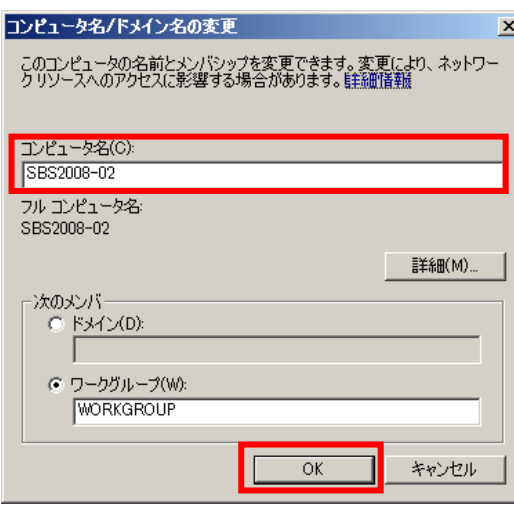
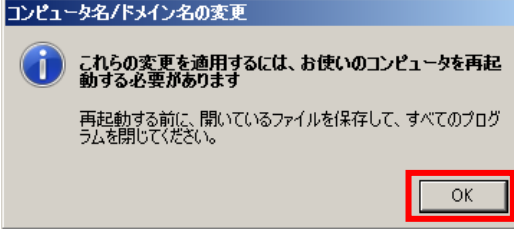
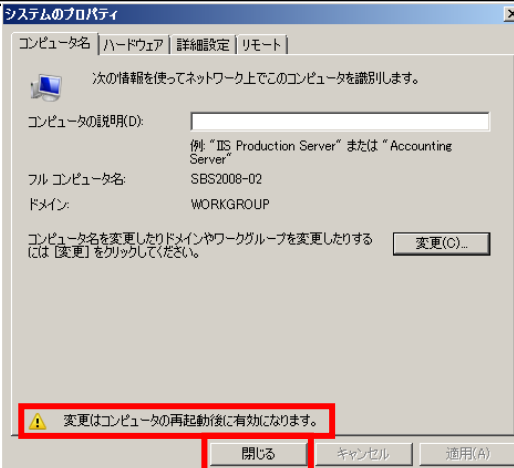
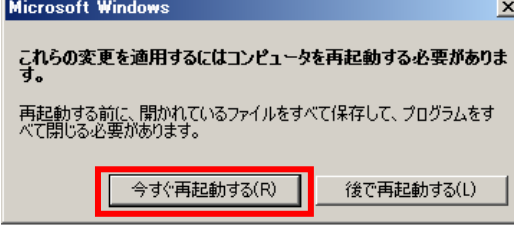
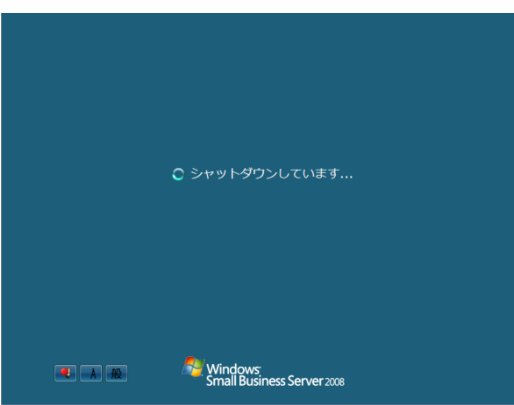
●本手順は SBS2008-02 で行います。　●所要時間は約 40 分です。

1	サーバの電源を ON にします。	
2	DVD ドライブに Windows Small Business Server 2008 のインストールディスクを挿入します。 ※32-bit OS をインストールする場合はインストール Disc3 を、64-bit OS をインストールする場合はインストール Disc4 を使用します。	
3	「System Console」画面が表示されます。	
4	「Press any key to boot from CD or DVD.」画面が表示されます。キーボードの任意のキーを押下します。	

5	「Windows のインストール」画面が表示されます。「次へ」をクリックします。 以降の手順は Windows Server 2008 と同様です。 セットアップ画面に従って、インストール作業を続行してください。	

以上で、Windows Server 2008 Standard のインストールが完了します。

3.5.2 ネットワーク設定

Windows Server 2008 インストール直後は、動的に IP アドレスを取得するように設定されています。必要に応じて IP アドレスの設定を行ってください。

●本手順は SBS2008-02 で行います。　●所要時間は約 5 分です。

1	「通知領域」→「ネットワーク」アイコンをクリックします。「ネットワークと共有センター」をクリックします。	
2	「ネットワークと共有センター」画面が表示されます。左ペインの「ネットワーク接続の管理」をクリックします。	

3	「ネットワーク接続」画面が表示されます。ネットワークアイコンを右クリックします。 「プロパティ」をクリックします。	
4	「ローカル エリア接続のプロパティ」画面が表示されます。「インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)」をポイントします。 「プロパティ」をクリックします。	
5	「インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)のプロパティ」画面が表示されます。IP アドレスと DNS の設定を行います。 「OK」をクリックします。 ※本手順では、静的 IP アドレスを設定します。	

6	「ローカル エリア接続のプロパティ」画面に戻ります。 「OK」をクリックします。	

以上で、ネットワーク設定が完了します。

3.5.3 コンピュータ名の変更

Windows Server 2008 インストール後、コンピュータ名は自動で設定されています(本手順では「WIN-42PNU43N054」)。必要に応じてコンピュータ名を変更してください。

●本手順は SBS2008-02 で行います。　●所要時間は約 10 分です。

1	「スタート」→「コンピュータ」→「プロパティ」をクリックします。	
2	「システム」画面が表示されます。 「システムの詳細設定」をクリックします。	

3	「システムのプロパティ」画面が表示されます。「コンピュータ名」タブをクリックします。 「変更」をクリックします。	システムのプロパティ コンピュータ名 | ハードウェア | 詳細設定 | リモート 次の情報を使ってネットワーク上でこのコンピュータを識別します。 コンピュータの説明(D): 例: "IIS Production Server" または "Accounting Server" フル コンピュータ名: WIN-42PNU43N054 ワークグループ: WORKGROUP コンピュータ名を変更したりドメインやワークグループを変更したりするには [変更] をクリックしてください。 変更(C)... OK キャンセル 適用(A)
4	「コンピュータ名/ドメイン名の変更」画面が表示されます。「コンピュータ名」に新しいコンピュータ名を入力します。 「OK」をクリックします。	コンピュータ名/ドメイン名の変更 このコンピュータの名前とメンバシップを変更できます。変更により、ネットワーク リソースへのアクセスに影響する場合があります。詳細情報 コンピュータ名(C): SBS2008-02 フル コンピュータ名: SBS2008-02 詳細(M)... 次のメンバ ドメイン(D): ワークグループ(W): WORKGROUP OK キャンセル
5	「コンピュータ名/ドメイン名の変更」画面が表示されます。「OK」をクリックします。	コンピュータ名/ドメイン名の変更 これらの変更を適用するには、お使いのコンピュータを再起動する必要があります 再起動する前に、開いているファイルを保存して、すべてのプログラムを閉じてください。 OK

6	「システムのプロパティ」画面に「変更はコンピュータの再起動後に有効になります。」が表示されます。 「閉じる」をクリックします。	
7	「これらの変更を適用するにはコンピュータを再起動する必要があります。」画面が表示されます。 「今すぐ再起動する」をクリックします。	
8	サーバが再起動します。	

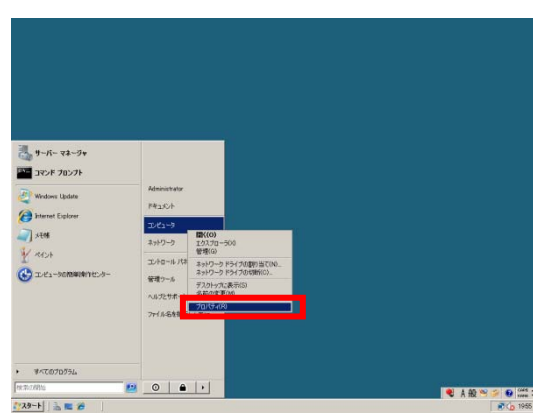
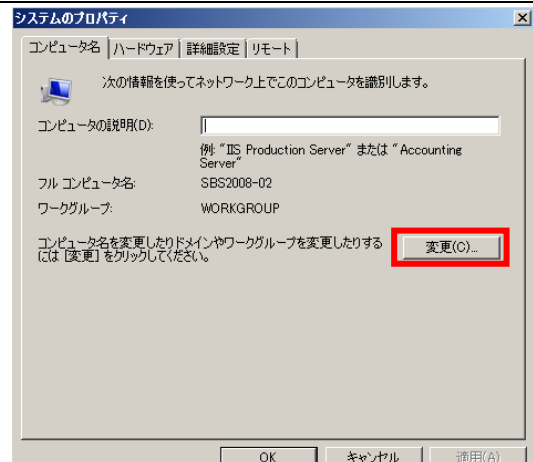
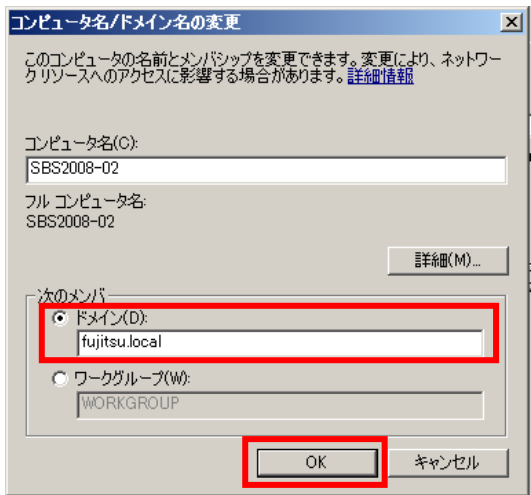
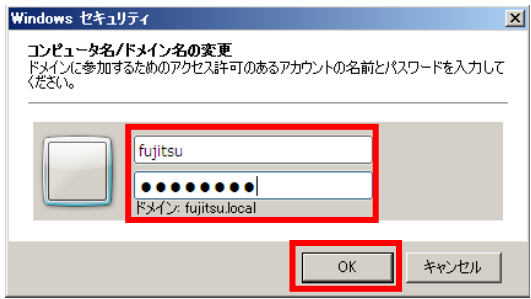
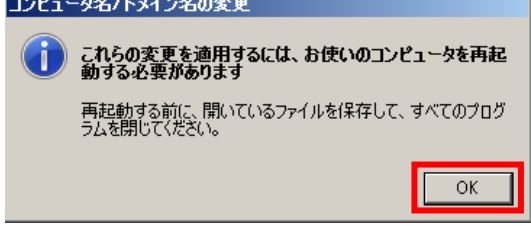
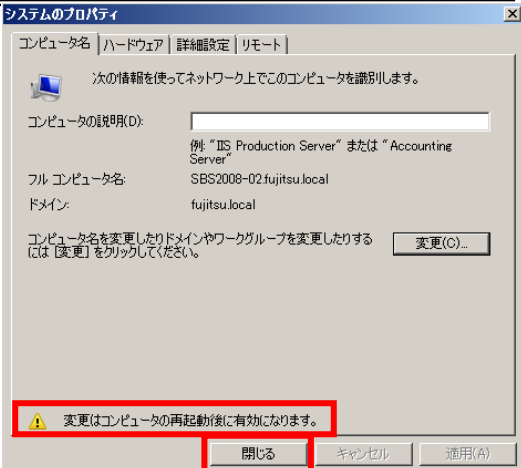
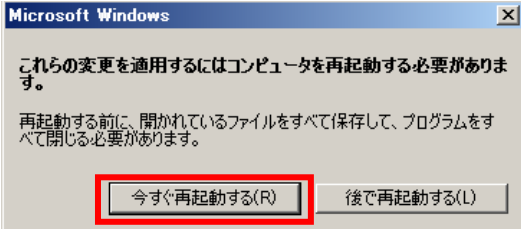
以上で、コンピュータ名の変更が完了します。

3.5.4 富士通標準添付ソフトのインストール

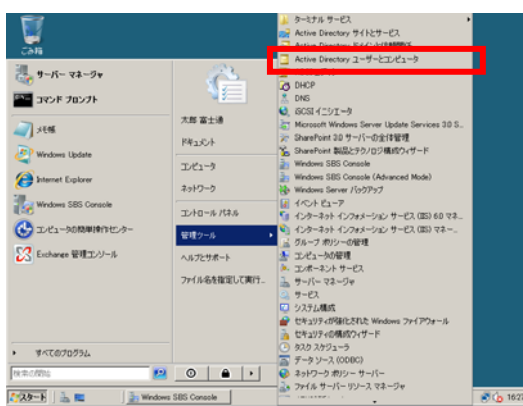
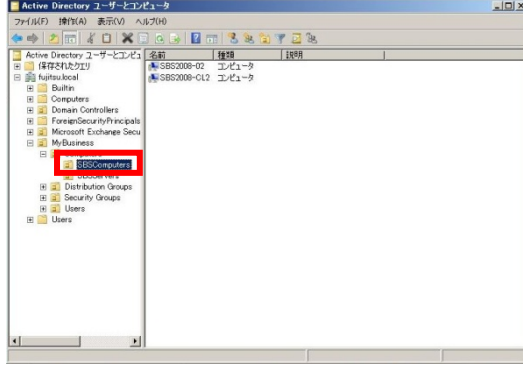
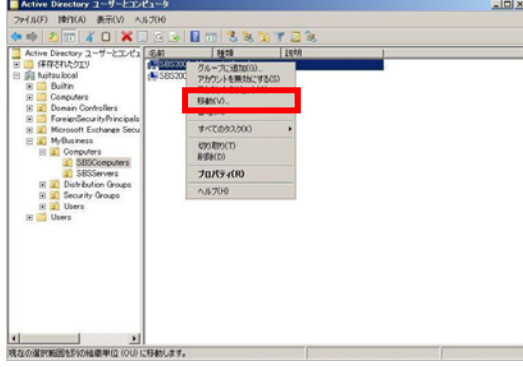
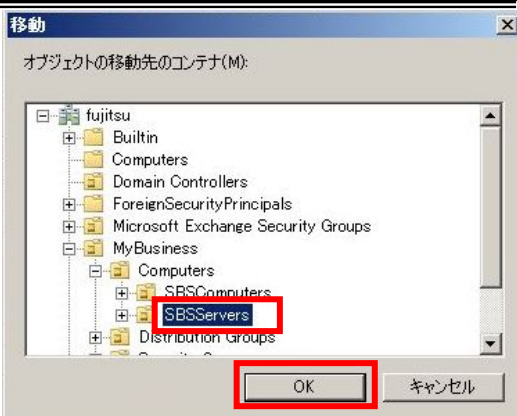
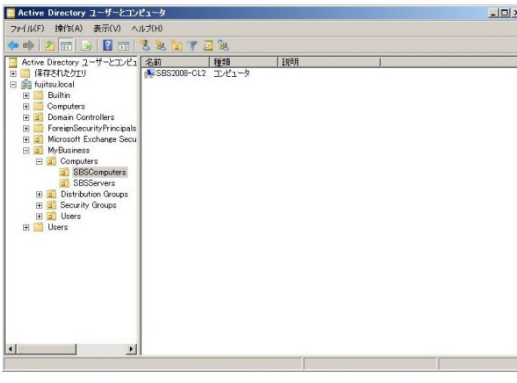
富士通標準添付ソフトのインストール手順は Windows Server 2008 と同様です。詳細な手順については以下 URL を参照してください。

・PRIMERGY サーバ本体のマニュアル一覧

http://primeserver.fujitsu.com/primergy/manual/

→ご使用の機種(発表時期)をクリックします。

→「ソフトウェアガイド」または「ユーザーズガイド」を参照してください。

3.5.5 Windows Small Business Server 2008 ドメインへの参加

Windows Small Business Server 2008 Premium の 2 台目サーバは、必ず Windows Small Business Server 2008 ドメインのメンバとして構成する必要があります。以下の手順に従ってドメインへ参加してください。

(1)Windows Small Business Server 2008 ドメインへの参加

●本手順は SBS2008-02 で行います。　●所要時間は約 10 分です。

1	「スタート」→「コンピュータ」を右クリックします。 「プロパティ」をクリックします。	
2	「システム」画面が表示されます。 「システムの詳細設定」をクリックします。	
3	「システムのプロパティ」画面が表示されます。「コンピュータ名」タブをクリックします。 「変更」をクリックします。	

4	「コンピュータ名/ドメイン名の変更」画面が表示されます。「次のメンバ」の「ドメイン」を選択し、1 台目サーバで設定したドメイン名を入力します。 「OK」をクリックします。	
5	「Windows セキュリティ」画面が表示されます。Windows Small Business Server 2008 ドメイン管理者名とパスワードを入力します。 「OK」をクリックします。	
6	「(ドメイン名)ドメインへようこそ」画面が表示されます。 「OK」をクリックします。	
7	「これらの変更を適用するには、お使いのコンピュータを再起動する必要があります」画面が表示されます。 「OK」をクリックします。	

8	「システムのプロパティ」画面に「変更はコンピュータの再起動後に有効になります。」が表示されます。 「閉じる」をクリックします。	
9	「これらの変更を適用するにはコンピュータを再起動する必要があります。」画面が表示されます。 「今すぐ再起動する」をクリックします。	
10	サーバが再起動します。	

(2)ドメインオブジェクトの移動

●本手順は SBS2008-01 で行います。　●所要時間は約 5 分です。

1	「スタート」→「管理ツール」→「Active Directory ユーザーとコンピュータ」をクリックします。	
2	「ユーザー アカウント制御」画面が表示されます。 「続行」をクリックします。	
3	「Active Directory ユーザーとコンピュータ」画面が表示されます。 左ペインの「（ドメイン名）」→「MyBusiness」→「Computers」→「SBSComputers」をクリックします。	
4	右ペインの Windows Small Business Server 2008 の 2 台目サーバオブジェクトを右クリックます。 「移動」をクリックします。	

5	「移動」画面が表示されます。「(ドメイン名)」→「MyBusiness」→「Computers」→「SBSServers」をポイントします。 「OK」をクリックします。	
6	Windows Small Business Server 2008 の 2 台目サーバオブジェクトが「SBSServers」へ移動したことを確認します。	

以上で、Windows Small Business Server 2008 ドメインへの参加が完了します。

3.5.6 SQL Server 2008 Standard for Small Businessのインストール(オプション)

Windows Small Business Server 2008 Premium には、SQL Server 2008 Standard for Small Business のライセンスが含まれます。インストール手順は通常の SQL Server 2008 と同様です。

インストール手順の詳細は以下 URL を参照してください。

・マイクロソフト社「SQL Server 2008 のインストール」

http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/bb500395.aspx

以上で、Windows Small Business Server 2008 Premium の 2 台目サーバの構成が完了します。

4 運用開始までの手順

Windows Small Business Server 2008 インストール後に、初期設定を行います。Windows Small Business Server 2008 に含まれるほとんどの機能は、特別な設定を行わずに利用できます。本章では、Windows Small Business Server 2008 ドメインにユーザを追加し、Windows Small Business Server 2008 に含まれる機能を利用するまでの手順について紹介します。

以下の図 7 は、運用開始から実運用までの流れです。

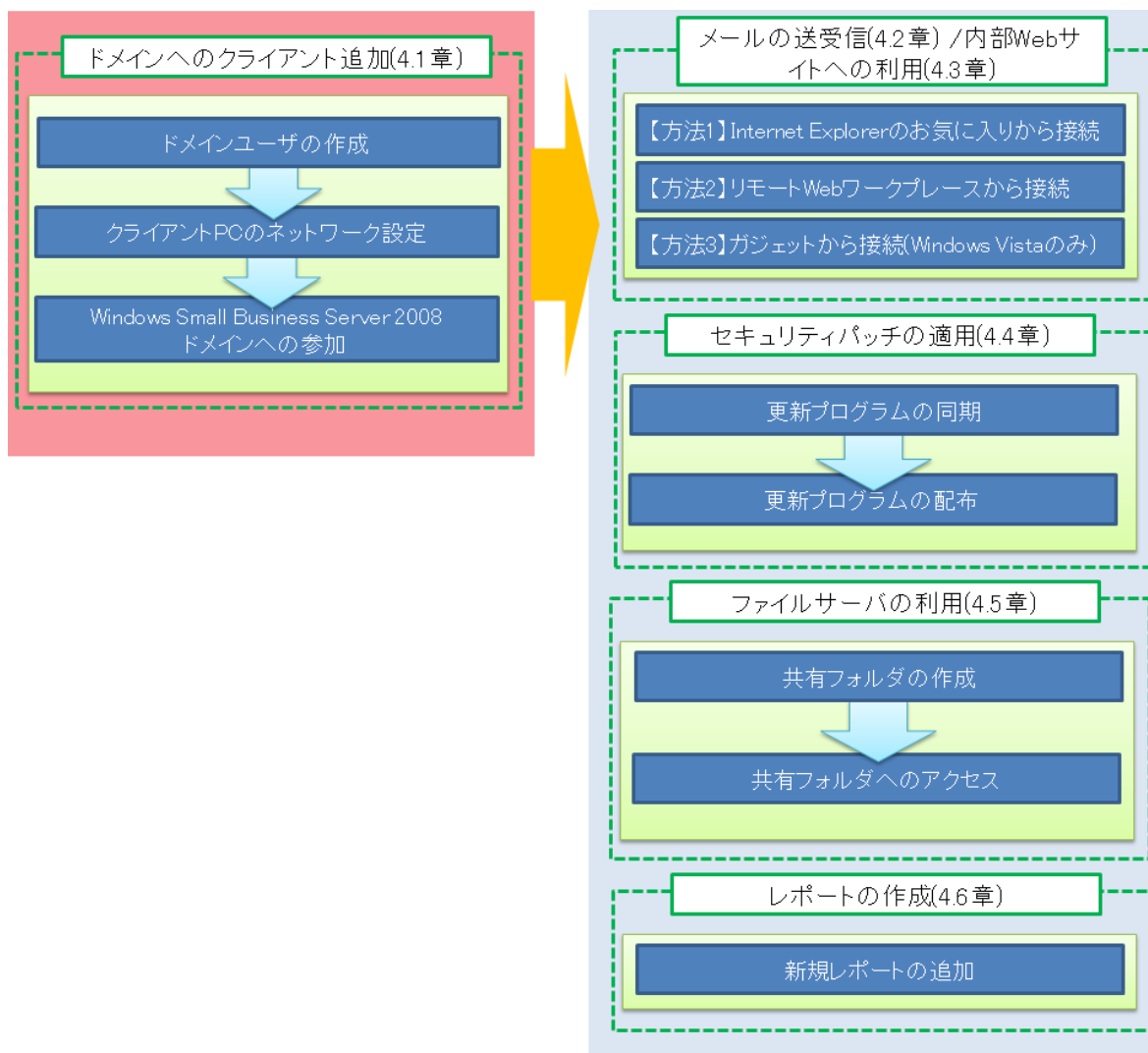



図 7 運用開始から実運用までの流れ

4.1 Windows Small Business Server 2008 ドメインへのクライアント追加

Windows Small Business Server 2008 では、クライアントをドメインへ追加するための方法が 2 パターン用意されています。

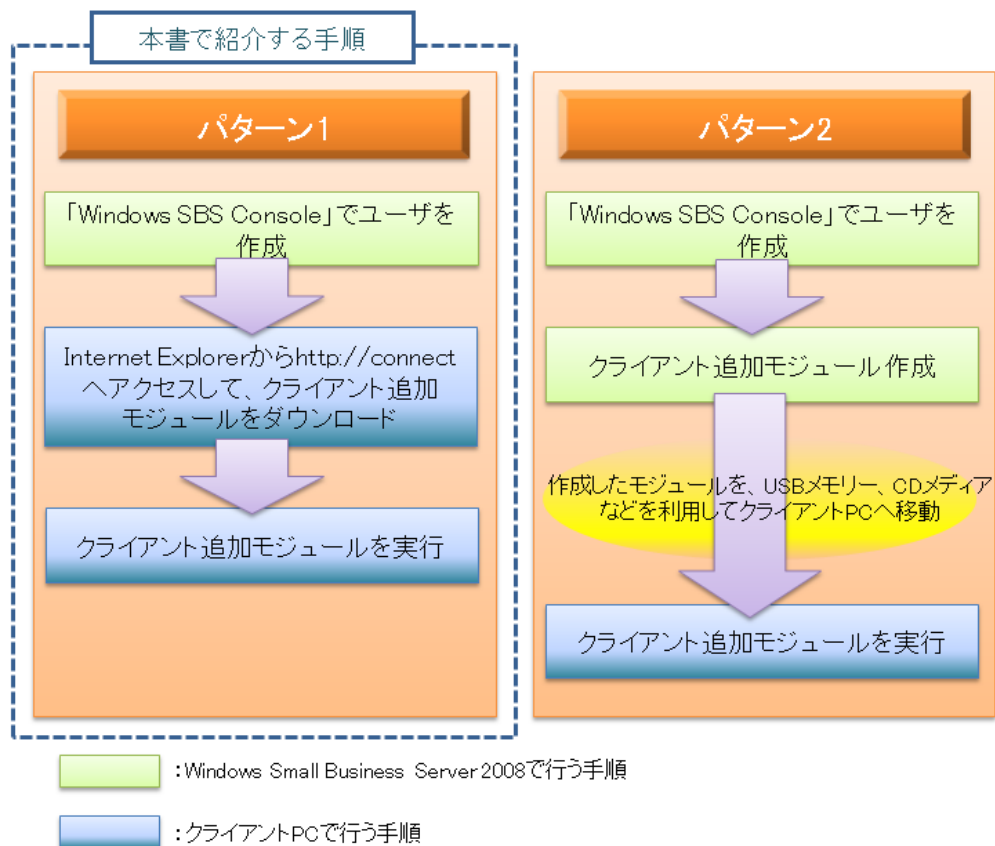
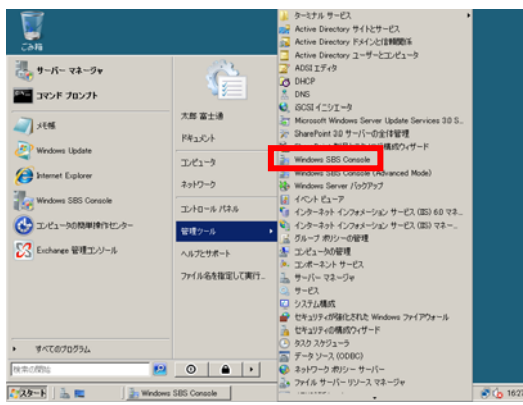
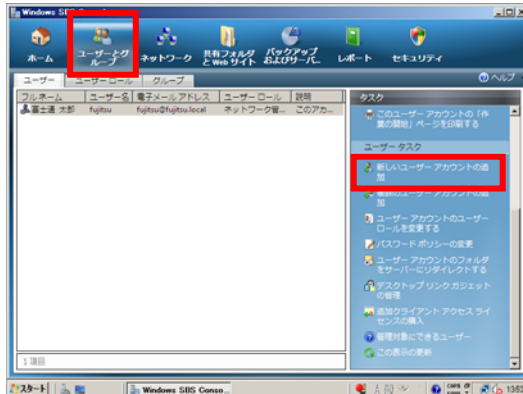
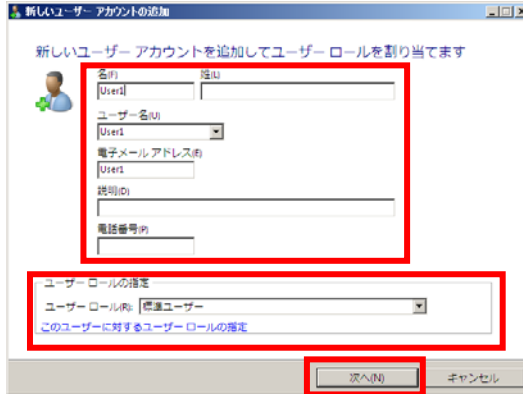
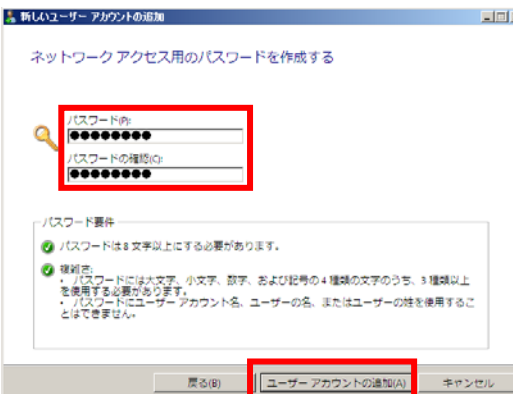
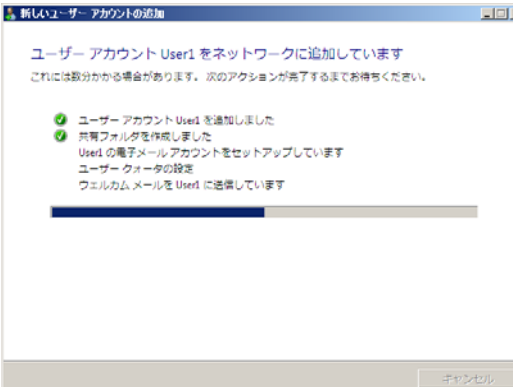



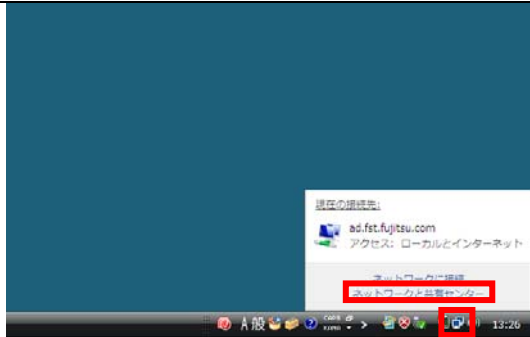
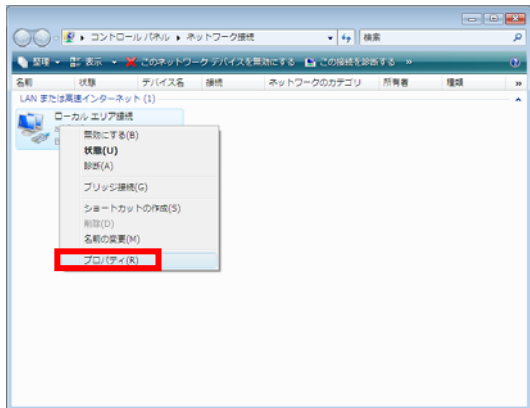
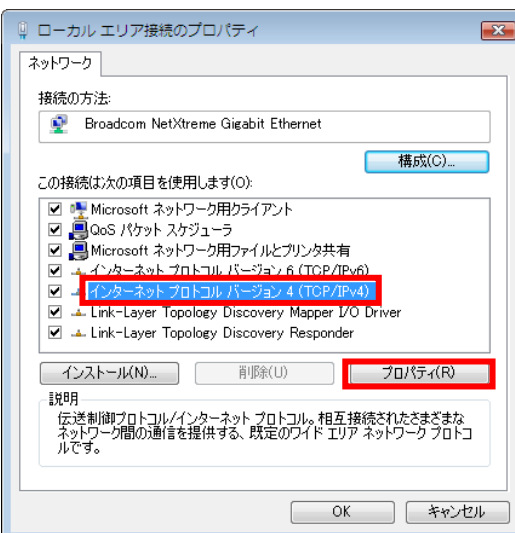
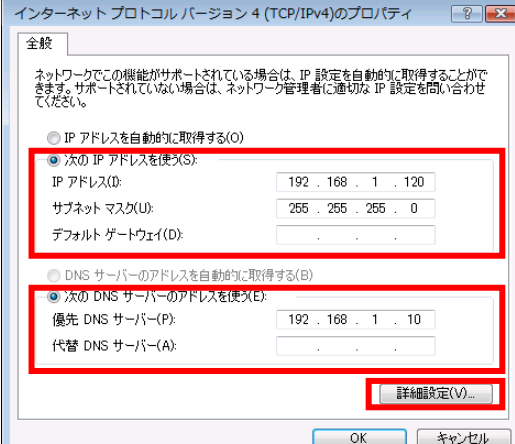
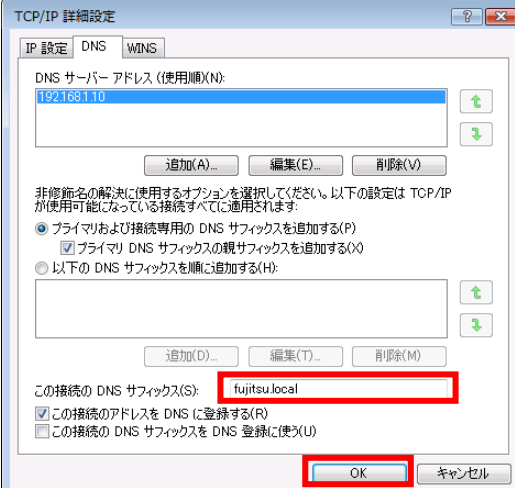
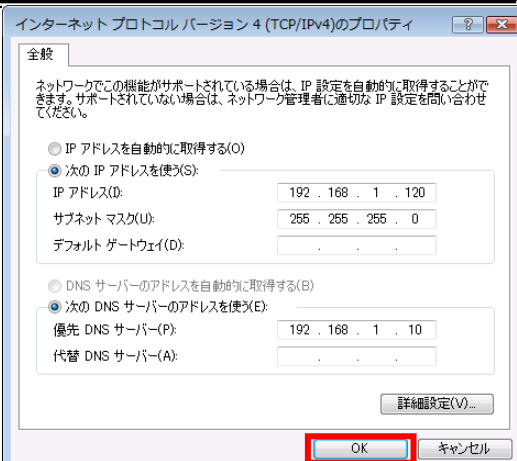
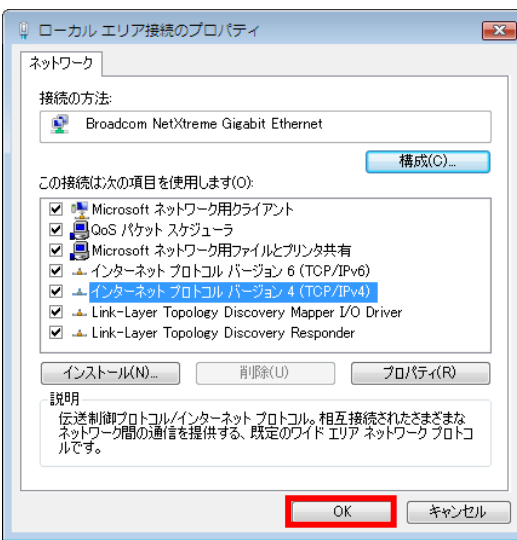
図 8 ドメインへのクライアント追加方法

本書では、標準的な手順である「パターン 1」の手順を紹介します。

POINT!

Windows Server 2008 ドメインと同様に「Active Directory ユーザーとコンピュータ」から Windows Small Business Server 2008 ドメインへ参加も可能です。ただし、Windows Small Business Server 2008 特有の「ユーザメールボックス自動作成」や「WSUS の自動設定」などが行われないため、パターン 1 またはパターン 2 の方法でドメインへ参加することを推奨します。

4.1.1 ドメインユーザの作成

「Windows SBS Console」でドメインユーザを作成すると、同時に Exchange Server 用のメールボックスが自動作成されます。Windows Small Business Server 2008 では、最大 75 ユーザまでの作成がライセンス上許可されています。

●本手順は SBS2008-01 で行います。

1	「スタート」→「管理ツール」→「Windows SBS Console」をクリックします。	
2	「Windows SBS Console」画面が表示されます。「ユーザーとグループ」タブをクリックします。「ユーザー」タブ→右ペインの「新しいユーザー アカウントの追加」をクリックします。	
3	「新しいユーザー アカウントを追加してユーザ ロールを割り当てます」画面が表示されます。各項目にユーザ情報を入力します。「ユーザーロールの指定」でユーザに割り当てるロールをプルダウンリストから選択します。 「次へ」をクリックします。	

4	「ネットワーク アクセス用のパスワードを作成する」画面が表示されます。パスワードを入力します。 「ユーザー アカウントの追加」をクリックします。	
5	「ユーザー アカウント(ユーザ名)をネットワークに追加しています」画面が表示されます。	
6	「ユーザー アカウント(ユーザ名)が正常にネットワークに追加されました」画面が表示されます。 「完了」をクリックします。	

以上で、ドメインユーザの作成が完了します。

4.1.2 ネットワーク設定

Windows Small Business Server 2008 ドメインへ参加するために、ネットワーク設定を行います。

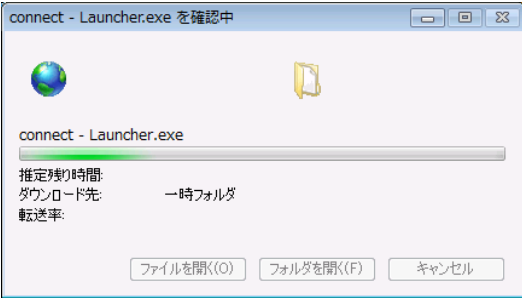
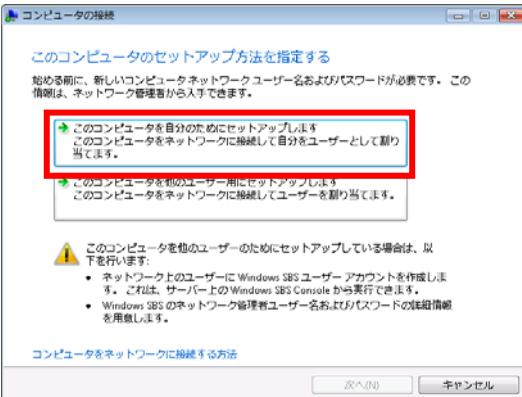
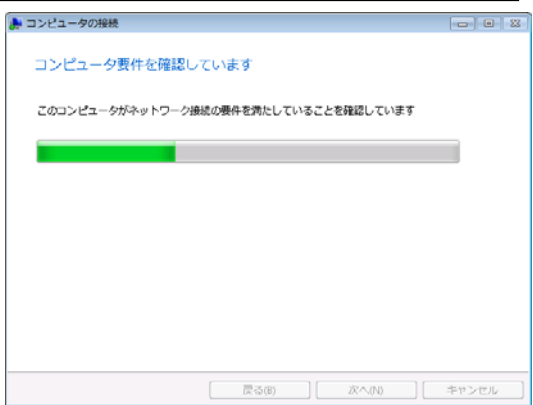
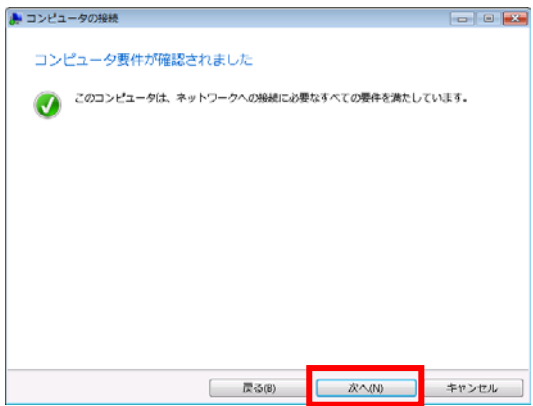
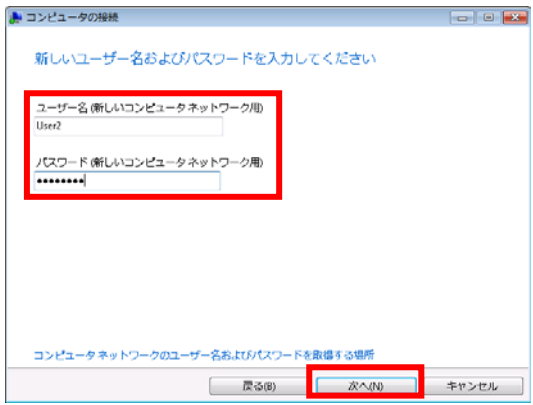
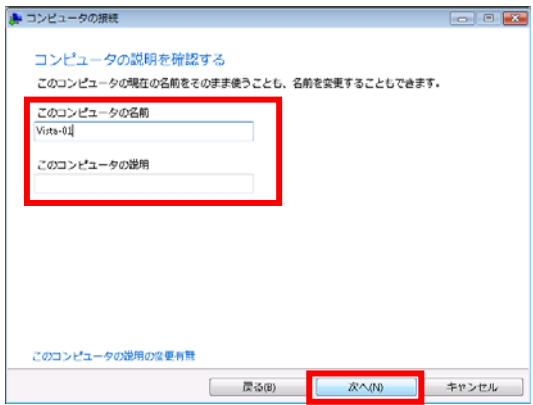
●本手順はクライアント PC（XP-01/Vista-01）で行います。

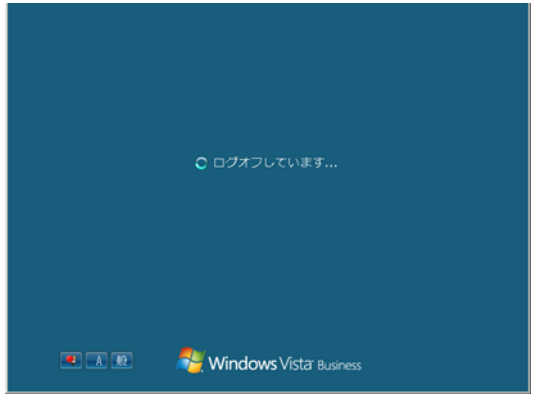
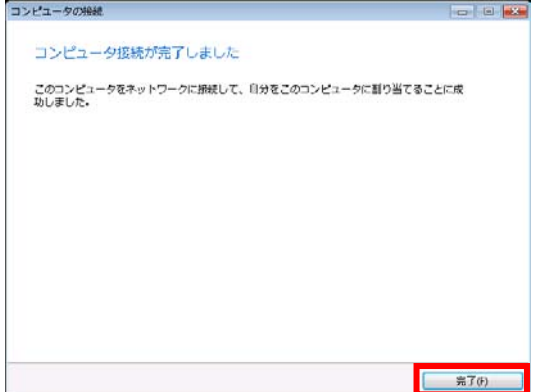
1	「通知領域」→「ネットワーク」アイコンをクリックします。 [ネットワークと共有センター]をクリックします。	
2	[ネットワークと共有センター]画面が表示されます。 [ネットワーク接続の管理]をクリックします。	
3	[ネットワーク接続]画面が表示されます。ネットワークアイコンを右クリックします。 「プロパティ」をクリックします。	

4	「ローカル エリア接続のプロパティ」画面が表示されます。「インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)」をポイントします。 「プロパティ」をクリックします。	
5	「インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)のプロパティ」画面が表示されます。IP アドレスと DNS の設定を行います。 「詳細設定」をクリックします。 ※本手順では、静的 IP アドレスを設定します。	
6	「TCP/IP 詳細設定」画面が表示されます。「DNS」タブをクリックします。「この接続の DNS サフィックス」に Windows Small Business Server 2008ドメイン名を入力します。 「OK」をクリックします。	

7	「インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)のプロパティ」画面に戻ります。「OK」をクリックします。	
8	「ローカル エリア接続のプロパティ」画面に戻ります。「OK」をクリックします。	

以上で、ネットワーク設定が完了します。

4.1.3 Windows Small Business Server 2008 ドメインへの参加

クライアント PC の Web ブラウザから「http://connect」へアクセスし、公開されているプログラムを実行することで、Windows Small Business Server 2008 ドメインへ参加できます。

POINT!

クライアント PC をドメイン参加させるためには、クライアント PC の IP アドレスとコンピュータ名が DNS の前方参照ゾーンに登録されている必要があります。クライアントに静的アドレスを設定している場合は、正常に登録されている事をドメイン参加前に確認してください。

●本手順はクライアント PC（XP-01/Vista-01）で行います。

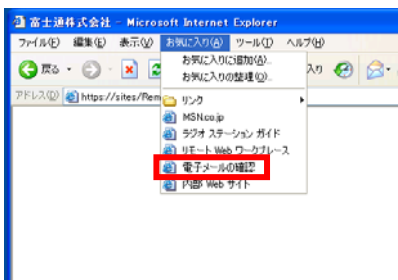
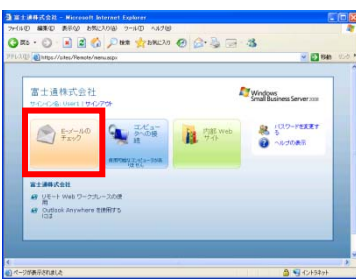
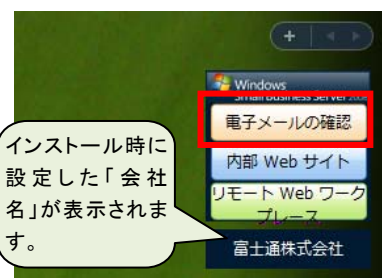
1	Internet Explorer を起動します。アドレスバーに「http://connect」と入力します。 「Enter」キーを押下します。	
2	「Windows Small Business Server 2008 へようこそ」画面が表示されます。 「コンピュータ接続プログラムの開始」をクリックします。	
3	「ファイルのダウンロード － セキュリティの警告」画面が表示されます。 「実行」をクリックします。	

4	「connect － Launcher.exe を確認中」画面が表示されます。	
5	「ユーザー アカウント制御」画面が表示されます。 「続行」をクリックします。	
6	「お待ちください…」画面が表示されます。	
7	「このコンピュータのセットアップ方法を指定する」画面が表示されます。 「このコンピュータを自分のためにセットアップします」をクリックします。	

8	「コンピュータ要件を確認しています」画面が表示されます。	
9	「コンピュータ要件が確認されました」画面が表示されます。 「次へ」をクリックします。	
10	「新しいユーザー名およびパスワードを入力してください」画面が表示されます。「4.1.1 章 ドメインユーザの作成」で作成したユーザアカウントとパスワードを入力します。 「次へ」をクリックします。	
11	「コンピュータの説明を確認する」画面が表示されます。正しいコンピュータ名が入力されていることを確認します。 「次へ」をクリックします。	

12	「既存のユーザーデータおよび設定を移動する」画面が表示されます。ユーザデータを移動する場合は、移動するユーザ名をプルダウンメニューより選択します。 「次へ」をクリックします。
13	「ユーザーデータおよび設定の選択を確認する」画面が表示されます。 「次へ」をクリックします。
14	「コンピュータの再起動」画面が表示されます。 「再起動」をクリックします。
15	「Windows SBS ネットワークに接続しています」画面が表示されます。

16	クライアント PC が 2 回再起動します。	
17	「コンピュータ接続が完了しました」画面が表示されます。 「完了」をクリックします。	

以上で、Windows Small Business Server 2008 ドメインへの参加が完了します。

4.2 メールの送受信

Windows Small Business Server 2008 では、既定で Exchange Server 2007 がインストール・構成されており、メールシステムの運用をすぐに開始できます。また、Windows Small Business Server 2008 ドメインのユーザを作成する際に、各ユーザのメールボックスが自動で作成されるため、容易に展開できます。

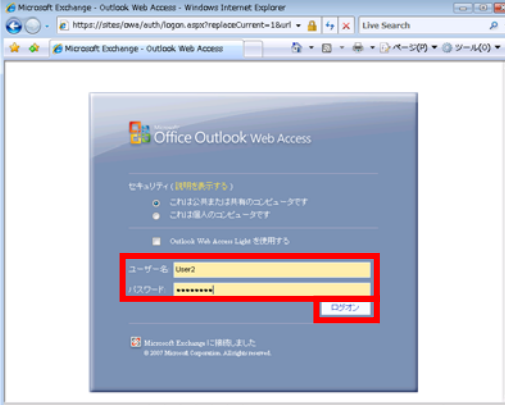
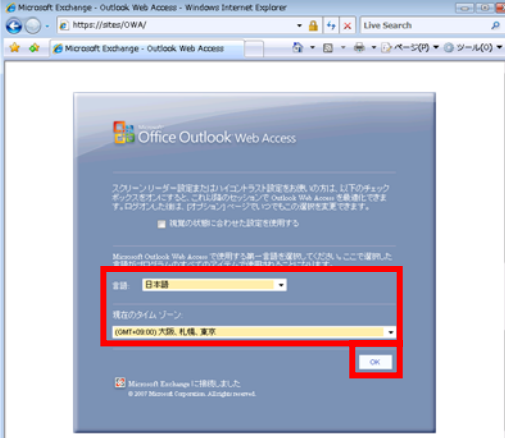
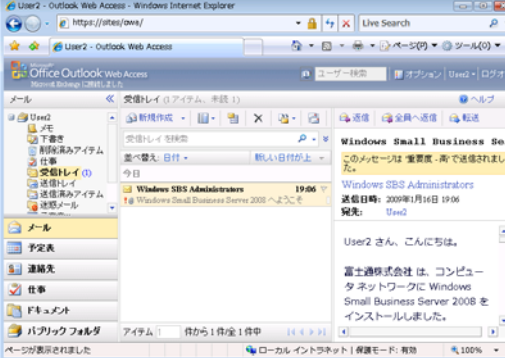
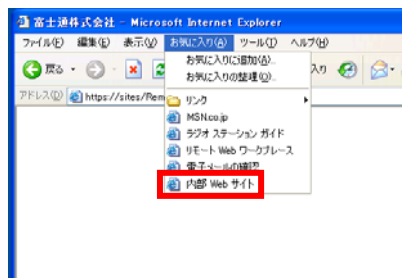
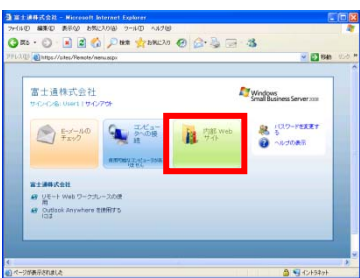
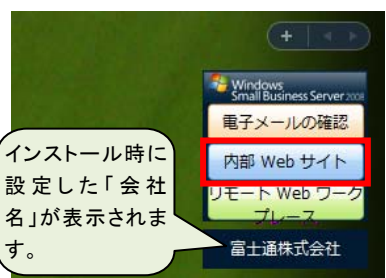
Exchange Server のメールボックスへのアクセスには、Microsoft Office Outlook Web Access を利用します。ユーザは、以下の場所から Microsoft Office Outlook Web Access へアクセスできます。

・Internet Explorer のお気に入り
・リモート Web ワークスペース
・Windows サイドバーガジェット(クライアント PC が Windows Vista の場合のみ)

表 2 メールボックスへの接続方法

Internet Explorer のお気に入り	リモート Web ワークスペース	Windows サイドバーガジェット(クライアント PC が Vista の場合のみ)
1. Internet Explorer を起動します。 2. ツールバーの「お気に入り」→「電子メールの確認」をクリックします。	1. リモート Web ワークスペースにアクセスします。(https://Sites/Remote) 2. 「E-メールのチェック」をクリックします。	1・Windows サイドバーガジェットをデスクトップに表示します。 2. Windows Small Business Server 2008 のガジェットで「電子メールの確認」をクリックします。

※上記はすべて「https://sites/owa」へのリンクです。この URL を Internet Explorer のアドレスバーに直接入力しても、Microsoft Office Outlook Web Access へアクセスできます。

1	「Microsoft® Office Outlook Web Access」画面が表示されます。「ユーザー名」、「パスワード」を入力します。 「ログオン」をクリックします。	
2	「言語」、「現在のタイムゾーン」をプルダウンリストから選択します。 「OK」をクリックします。	
3	メールが確認できます。	

4.3 内部Webサイトの利用

Windows Small Business Server 2008 では、既定で Windows SharePoint Services がインストール・構成されており、内部 Web サイトをすぐに利用できます。

4.3.1 内部Webサイトへのアクセス

Windows Small Business Server 2008 では、「Companyweb」という Web サイトが作成されており、内部 Web サイトのトップページとして利用できます。「Companyweb」へは、以下の場所からアクセスできます。

・Internet Explorer のお気に入り
・Web ワークスペース
・Windows サイドバーガジェット(クライアント PC が Windows Vista の場合のみ)

表 3 内部 Web サイトへの接続方法

Internet Explorer のお気に入り	リモート Web ワークスペース	Windows サイドバーガジェット(クライアント PC が Vista の場合のみ)
1. Internet Explorer を起動します。 2. ツールバーの「お気に入り」→「内部 Web サイト」をクリックします。	1. リモート Web ワークスペースにアクセスします。(https://Sites/Remote) 2. 「内部 Web サイト」をクリックします。	1. Windows サイドバーガジェットをデスクトップに表示します。 2. Windows Small Business Server 2008 のガジェットで「内部 Web サイト」をクリックします。

※上記はすべて「http://Companyweb」へのリンクです。この URL を Internet Explorer のアドレスバーに直接入力しても、内部 Web サイトへアクセスできます。

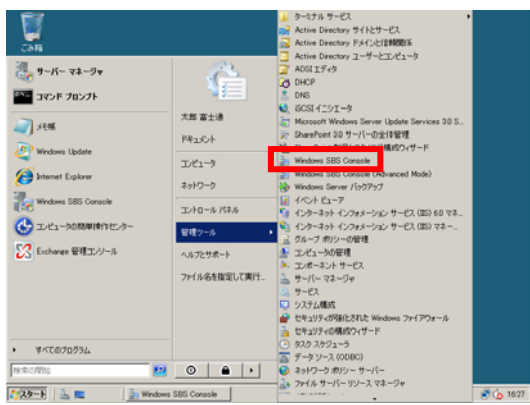
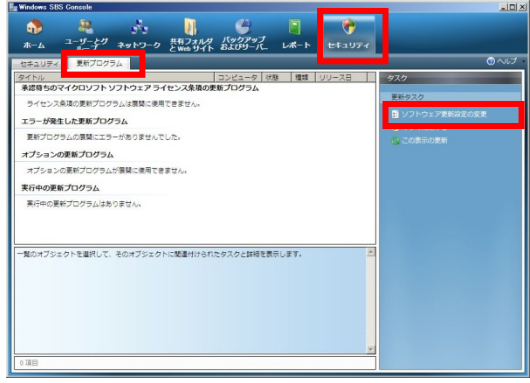
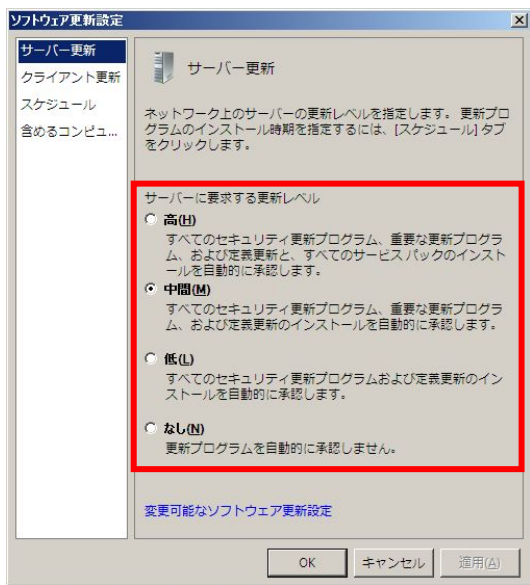
「Companyweb」サイトが表示されます。初期状態では、「お知らせ」、「予定表」、「リンク」の Web パーツが追加されています。	

4.3.2 内部Webサイトのカスタマイズ

Web パーツの追加など、Web ページのカスタマイズ方法は、通常の SharePoint Services と同様です。詳細については、以下 URL を参照してください。

・Microsoft 社「Windows SharePoint Services」

http://office.microsoft.com/ja-jp/sharepointtechnology/default.aspx

4.4 セキュリティパッチの適用

Windows Small Business Server 2008 では、既定で WSUS がインストールされます。Windows Small Business Server 2008 ドメインのメンバは、ドメインに参加するだけで WSUS クライアントとして構成され、セキュリティパッチが自動で適用されます。既定では、サーバとクライアントに以下の「要求する更新レベル」が設定されています。

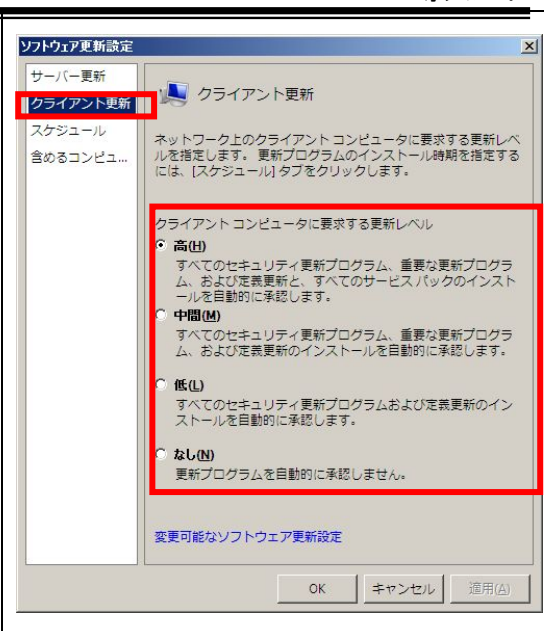
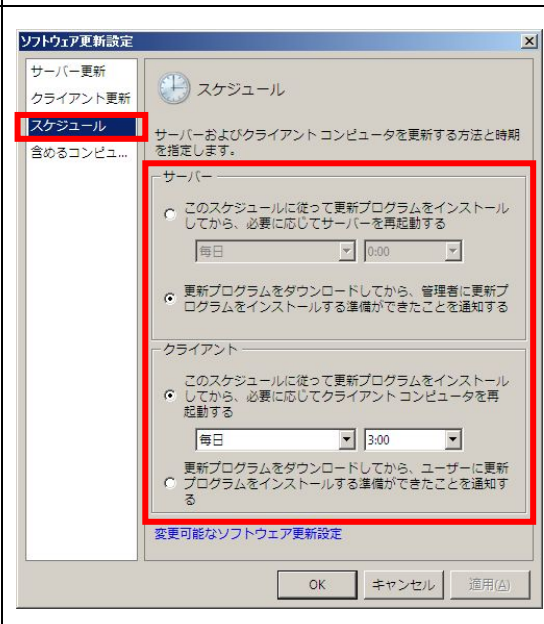
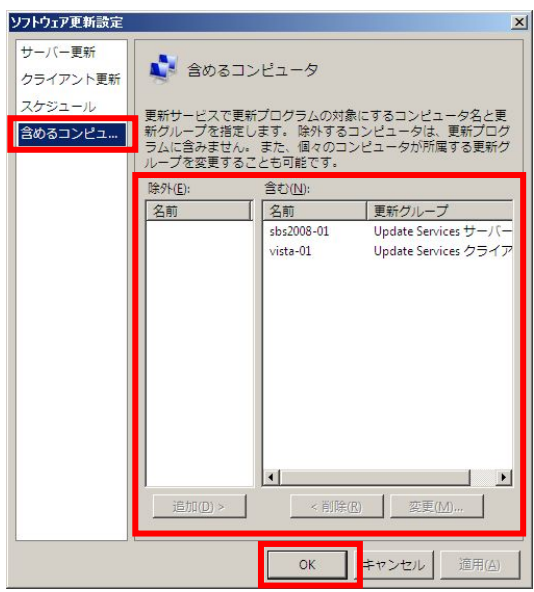



表 4 既定のセキュリティパッチ適用レベル

セキュリティパッチの適用対象	要求する更新レベル	説明
サーバ	中間	すべてのセキュリティ更新プログラム、重要な更新プログラム、および定義更新のインストールを自動的に承認します。
クライアント	高	すべてのセキュリティ更新プログラム、重要な更新プログラム、および定義更新と、すべてのサービスパックのインストールを自動的に承認します。

要求する更新レベルを変更する場合は、以下の手順に従って変更してください。

●本手順は SBS2008-01 で行います。

1	「スタート」→「管理ツール」→「Windows SBS Console」をクリックします。	
2	「Windows SBS Console」画面が表示されます。「セキュリティ」タブをクリックします。「更新プログラム」タブ→右ペインの「ソフトウェア更新設定の変更」をクリックします。	
3	「サーバー更新」画面が表示されます。サーバに要求する更新レベルを選択します。	

4	左ペインの「クライアント更新」をクリックします。クライアントに要求する更新レベルを選択します。	
5	左ペインの「スケジュール」をクリックします。サーバとクライアントの更新プログラム適用方法と時期を選択します。	

	6	「含めるコンピュータ」をクリックします。 更新プログラムを適用するコンピュータを「含む」に追加します。 「OK」をクリックします。	

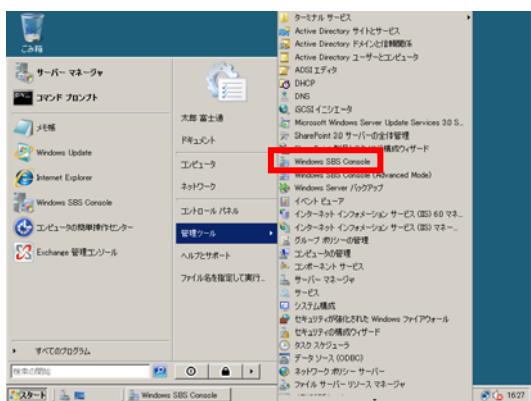
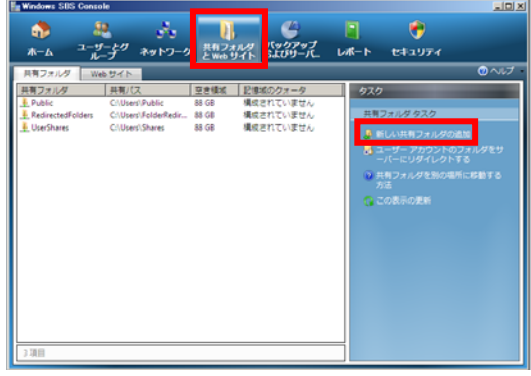
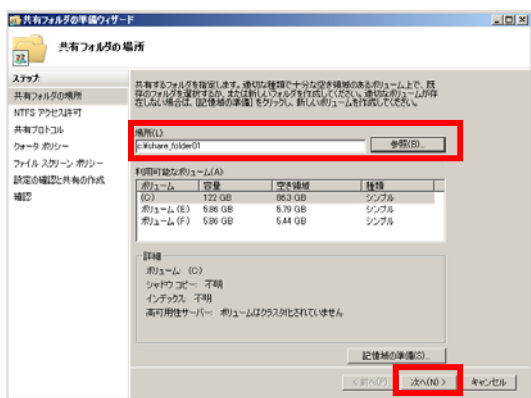
以上で、セキュリティパッチ適用設定が完了します。

【参考】

Windows Server 2008 と同様に、「WSUS コンソール」から詳細なセキュリティパッチ適用設定が行えます。WSUS コンソールの利用方法については、以下 URL を参照してください。

・マイクロソフト社「Microsoft Windows Server Update Services (WSUS)」

http://technet.microsoft.com/ja-jp/wsus/default.aspx

図 9　WSUS コンソール

4.5 ファイルサーバの利用

Windows Small Business Server 2008 では、管理コンソール「Windows SBS Console」から共有フォルダの作成、管理が行えます。共有ファイルのクォーター設定や詳細なアクセス権の設定などが可能です。

4.5.1 共有フォルダの作成

Windows Small Business Server 2008 では、Windows SBS Console から「共有フォルダの準備ウィザード」を起動して共有フォルダを作成できます。

●本手順は SBS2008-01 で行います。

1	「スタート」→「管理ツール」→「Windows SBS Console」をクリックします。	
2	「Windows SBS Console」画面が表示されます。「共有フォルダと Web サイト」タブをクリックします。「共有フォルダ」タブ→右ペインの「新しい共有フォルダの追加」をクリックします。	
3	「共有フォルダの場所」画面が表示されます。「場所」に共有フォルダの場所を入力します。 「次へ」をクリックします。	

4	「NTFS アクセス許可」画面が表示されます。NTFS アクセス許可を設定します。 「次へ」をクリックします。	
5	「共有プロトコル」画面が表示されます。 「次へ」をクリックします。 ※本書では共有プロトコルに「SMB」を使用する場合の手順を紹介します。	
6	「SMB 設定」画面が表示されます。 「次へ」をクリックします。	
7	「SMB アクセス許可」画面が表示されます。SMB アクセス許可を設定します。 「次へ」をクリックします。	

8	「クォータポリシー」画面が表示されます。クォータポリシーを設定します。 「次へ」をクリックします。	
9	「ファイルスクリーンポリシー」画面が表示されます。ファイルスクリーンの設定を行います。 「次へ」をクリックします。	
10	「DFS 名前空間への発行」画面が表示されます。DFS 名前空間への発行の設定を行います。 「次へ」をクリックします。	
11	「設定の確認と共有の作成」画面が表示されます。 「作成」をクリックします。	

12	「確認」画面が表示されます。ウィザードが正常に完了したことを確認します。 「閉じる」をクリックします。	

以上で、共有フォルダの作成が完了します。

4.5.2 共有フォルダへのアクセス

「4.5.1 章　共有フォルダの作成」で作成した共有フォルダへ、クライアント PC からアクセスします。

●本手順はクライアント PC（XP-01/Vista-01）で行います。

1	「スタート」をクリックします。「検索ボックス」に以下の形式で共有フォルダ名を入力します。 ¥¥(IP アドレス)¥共有ファイル名 （例)¥¥192.168.1.10¥SBS-share01 ¥¥(SBS サーバ名)¥共有ファイル名 （例)¥¥SBS2008-01¥SBS-share01 ※クライアント PC が Windows XP の場合、「スタート」→「ファイル名を指定して実行」をクリックします。「ファイル名を指定して実行」画面の「名前」に共有フォルダ名を入力します。	
2	指定した共有フォルダにアクセスできます。	

4.6 レポートの作成

サーバの状態や使用状況をレポートとして自動作成します。作成したレポートは、「Windows SBS Console」で確認できるほか、管理者または任意のユーザへメールを自動送信できます。Windows Small Business Server 2008 では、既定で以下の「ネットワークの概要レポート」、「ネットワークの詳細レポート」の 2 種類のレポートが登録されています。

表 5 既定で登録されているレポートの設定

分類	項目	ネットワークの概要レポート	ネットワークの詳細レポート
レポートのコンテンツ	概要	有効	有効
	セキュリティ	無効	有効
	更新プログラム	無効	有効
	バックアップ	無効	有効
	その他のアラート	無効	有効
	電子メールの使用状況	無効	有効
	サーバーイベントログ	無効	有効
電子メールオプション	レポートのメール送信	有効	有効
	メール送信先	「Windows SBS Administrators」	「Windows SBS Administrators」
レポート作成スケジュール		毎日 3:15	毎週日曜日 3:45

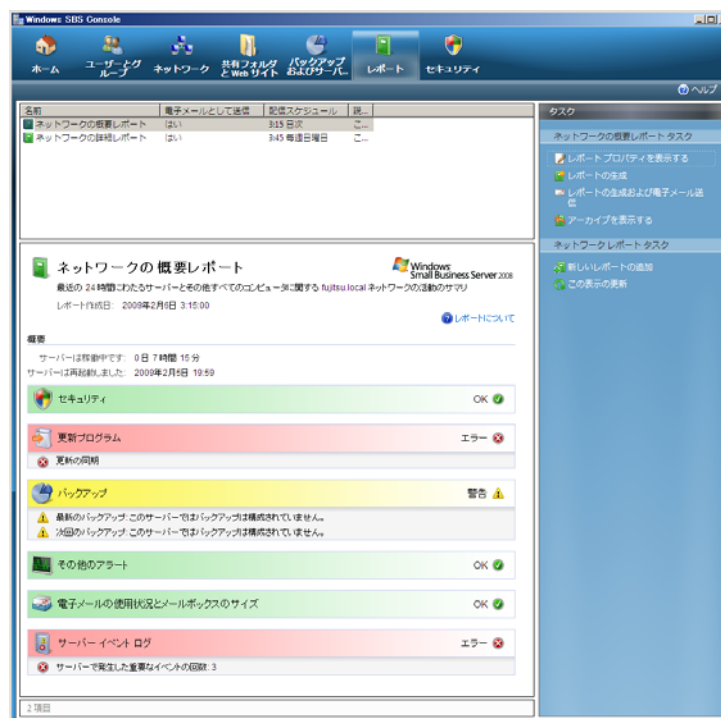
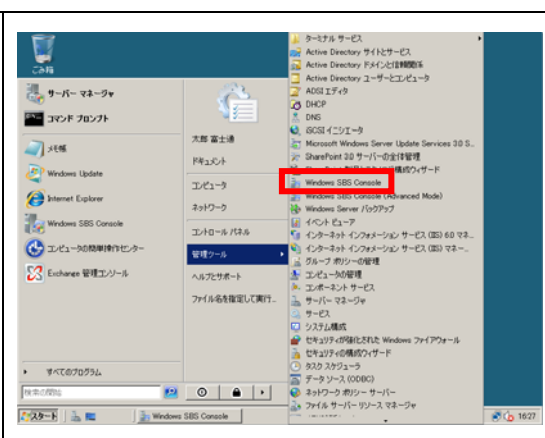
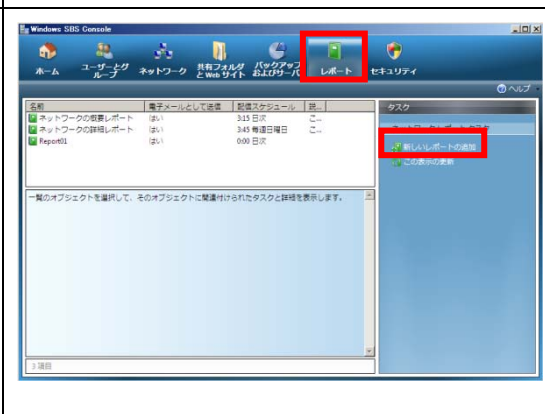
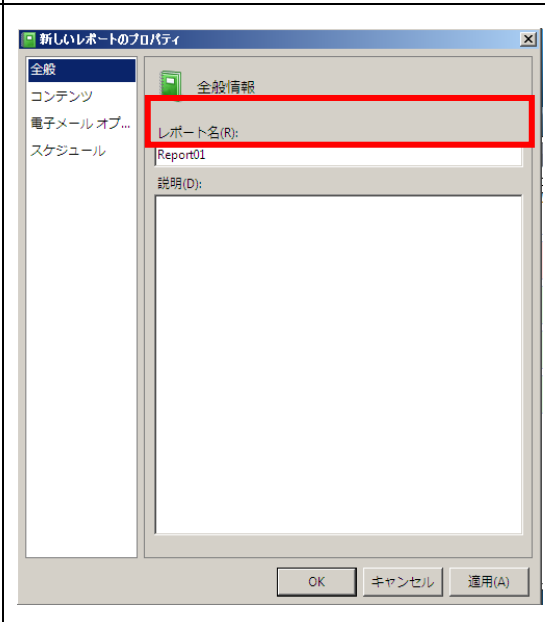
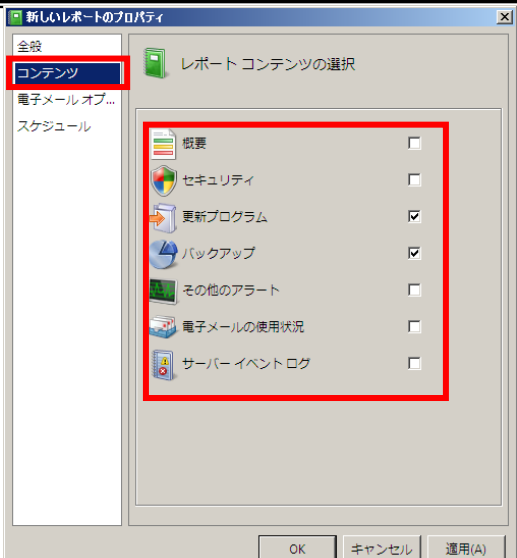
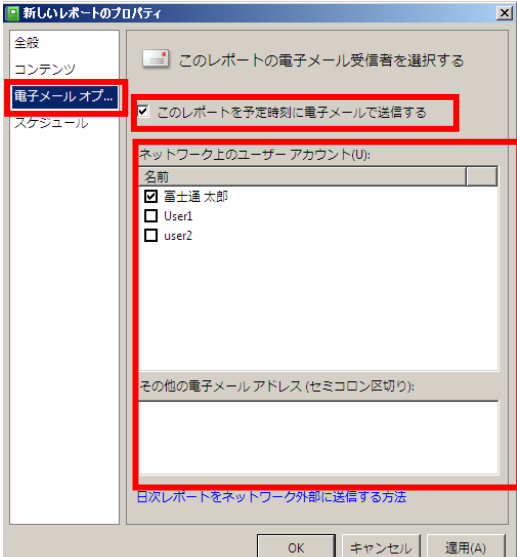
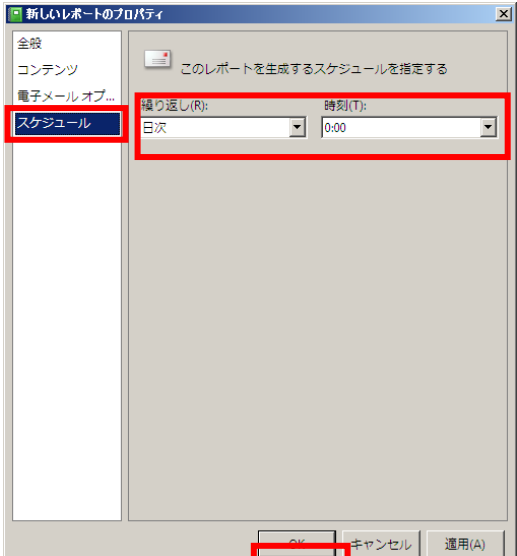



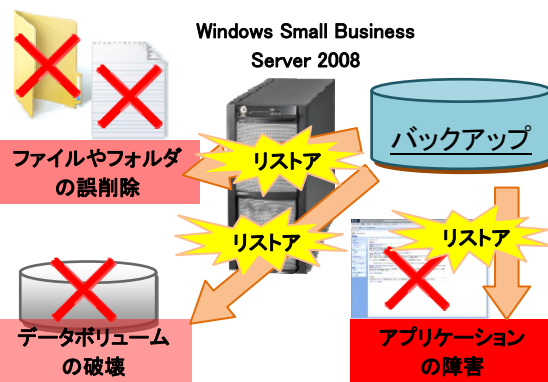
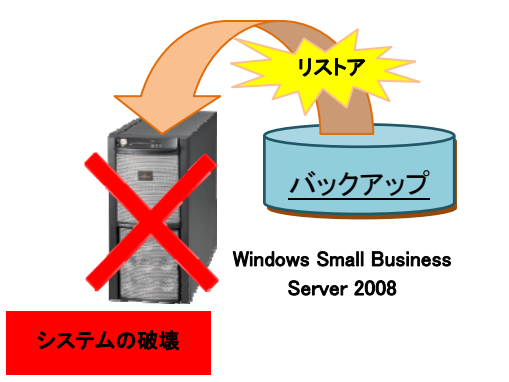
図 10 Windows SBS Console でのネットワーク概要レポート

また、以下の手順で新しいレポートを作成できます。

●本手順は SBS2008-01 で行います。

1	「スタート」→「管理ツール」→「Windows SBS Console」をクリックします。	
2	「Windows SBS Console」画面が表示されます。「レポート」タブをクリックします。 右ペインの「新しいレポートの追加」をクリックします。	
3	「新しいレポートのプロパティ」画面が表示されます。「全般情報」の「レポート名」に新規作成するレポートの名前を入力します。	

4	左ペインの「コンテンツ」をクリックします。「レポートコンテンツの選択」の中から、レポートを作成する項目にチェックを入れます。	
5	左ペインの「電子メールオプション」をクリックします。レポートを電子メールで送信する場合は、「このレポートを予定時刻に電子メールで送信する」にチェックを入れ、電子メールを送信するユーザアカウントまたは、電子メールアドレスを設定します。	
6	左ペインの「スケジュール」をクリックします。「このレポートを生成するスケジュールを指定する」で、レポートを生成するスケジュールを設定します。 「OK」をクリックします。	

以上で、レポートの作成が完了します。

5　　障害時の復旧

Windows Small Business Server 2008 に障害が発生した場合、Windows Server バックアップで取得したバックアップイメージからリストアを行います。本章では、いくつかの障害シナリオに合わせて復旧方法を紹介します。

5.1 障害時の復旧シナリオ

障害時の復旧シナリオには、「部分的なリストア」と、「サーバ全体のリストア」があります。

表 6　障害時の復旧シナリオ

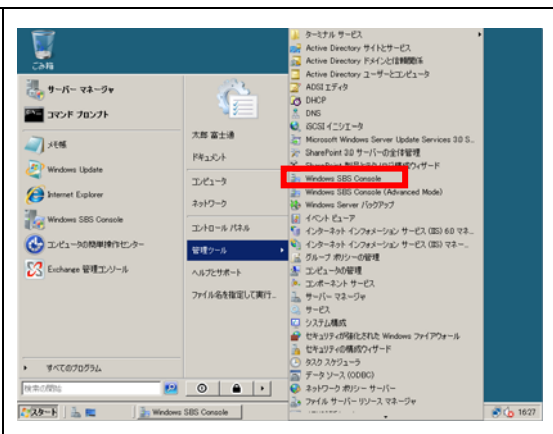
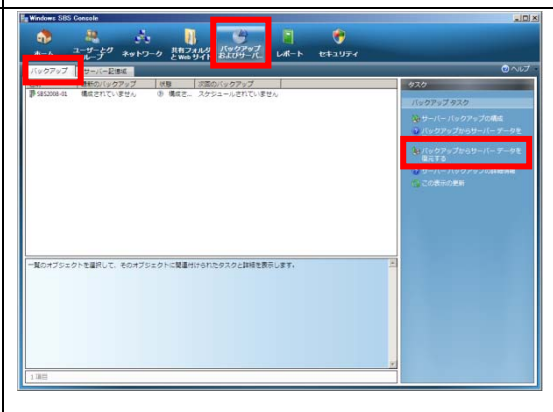
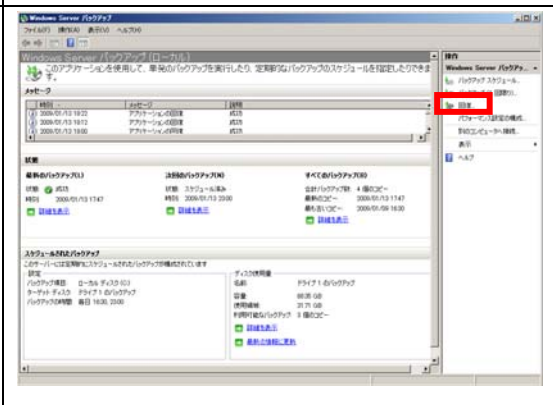
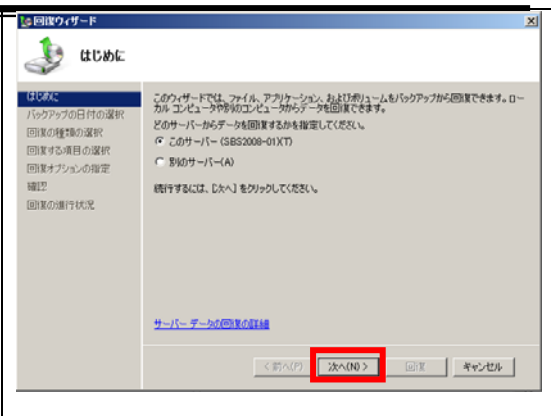
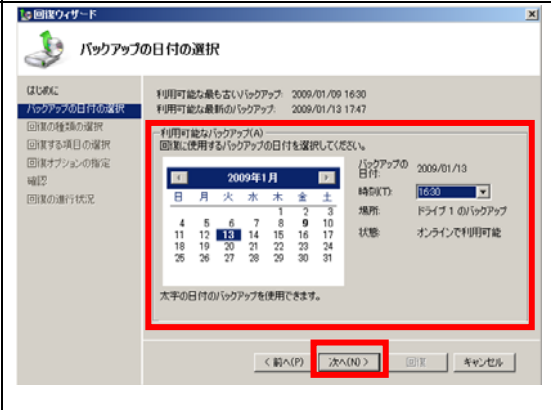
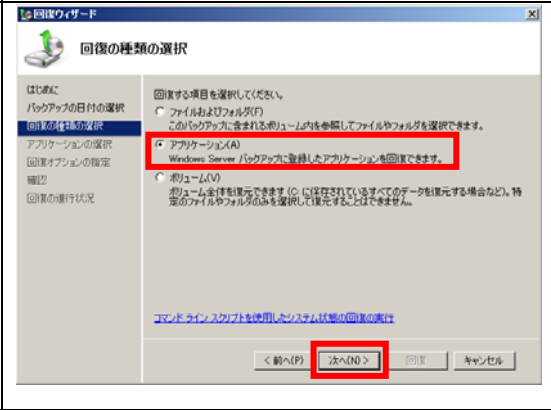
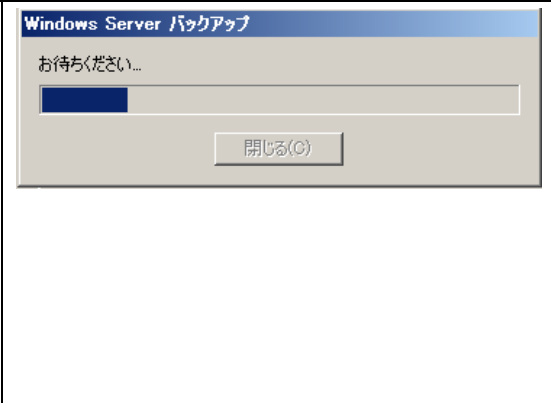
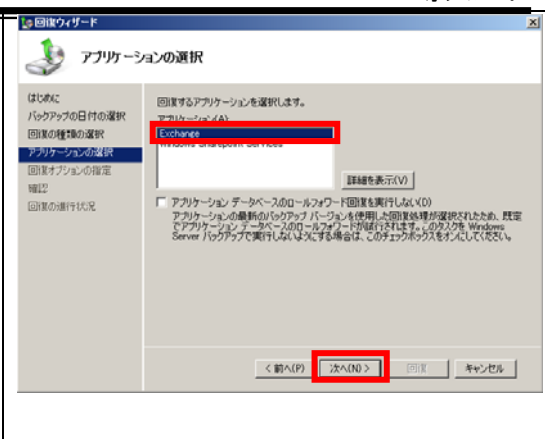
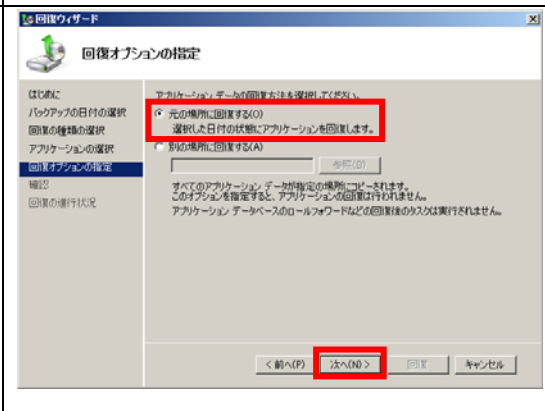
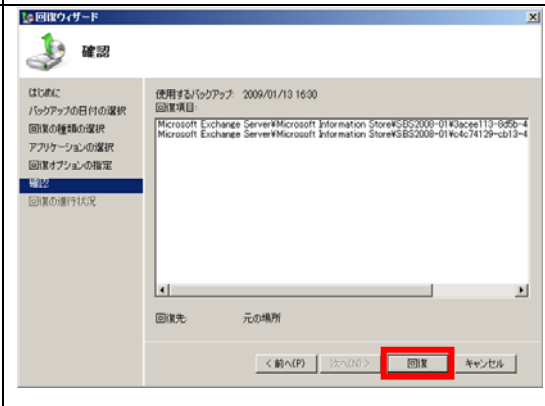
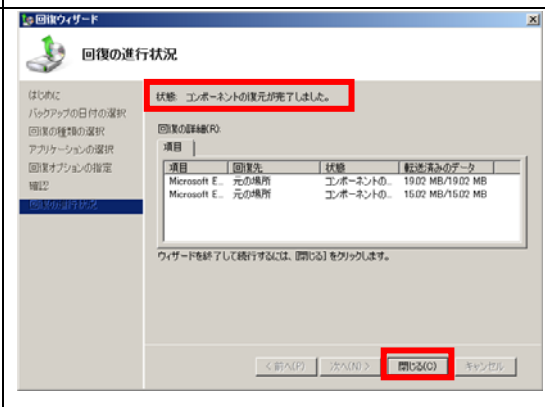
部分的なリストア	サーバ全体のリストア
Windows SBS Console から部分的なリストアが可能です。以下の単位でリストアを実行できます。 ・ファイルまたはフォルダ ・ボリューム ・アプリケーション －Exchange Server (5.2 章 Exchange Serverのリストアを参照) －Windows SharePoint Services (5.3 章 Windows SharePoint Servicesのリストアを参照)	重大な障害が発生した場合、Windows Complete PC 復元を利用して、サーバ全体のリストアが可能です。バックアップを取得した時点の状態に戻せます。

「ファイルまたはフォルダ」、「ボリューム」の部分的なリストアは、通常の Windows Server 2008 の復旧手順と同様です。また、サーバ全体のリストアも、リストア時に「Windows Server 2008 のインストールディスク」ではなく、「Windows Small Business Server 2008 Disc1」を利用する以外、通常の Windows Server 2008 と同様の手順です。詳細な手順は以下 URL を参照してください。

・マイクロソフト社「サーバーを回復する」

http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc753920.aspx

本書では Windows Small Business Server 2008 に含まれるアプリケーション(Exchange Server、Windows SharePoint Services)の復旧について紹介します。

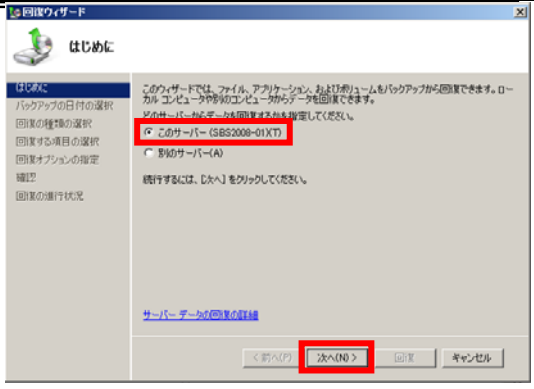
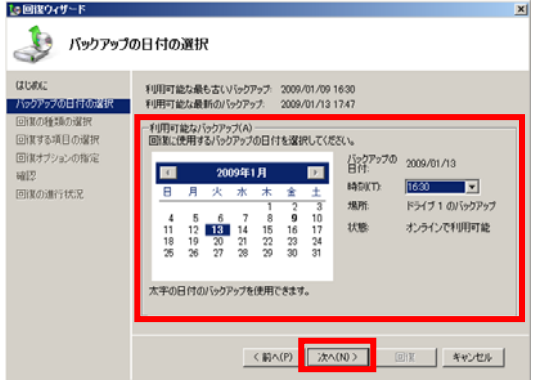
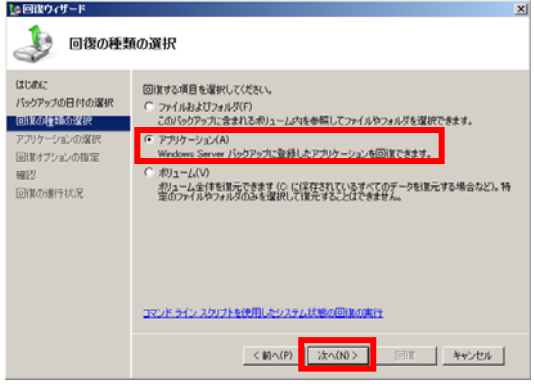
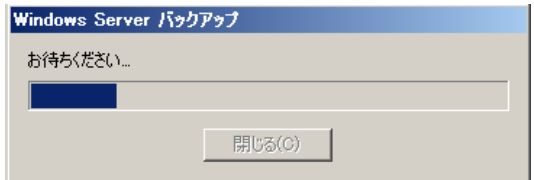
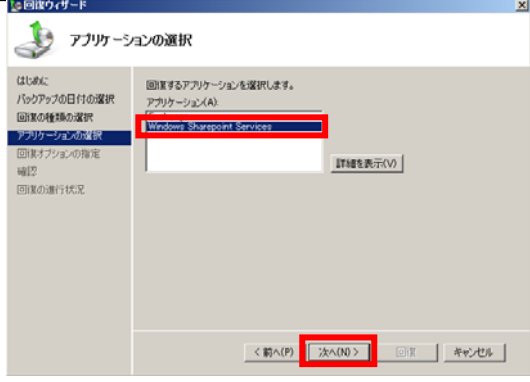
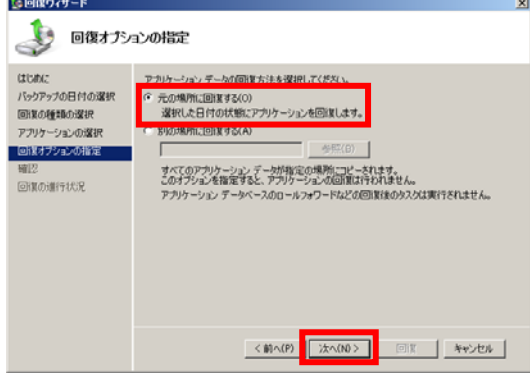
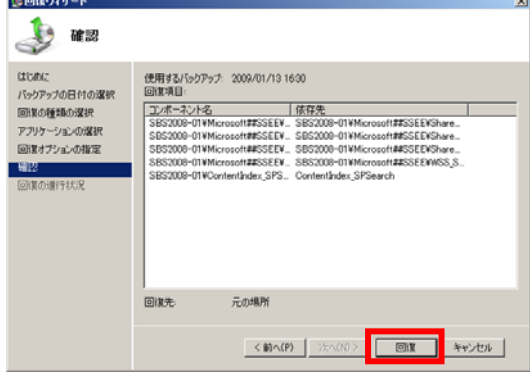
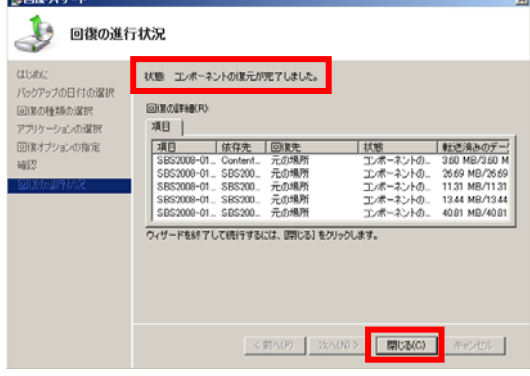
※2 台目サーバに SQL Server 2008 Standard for Small Business をインストールしている場合、リストア手順は通常の SQL Server 2008 と同様です。
詳細は、以下 URL を参照してください。
・マイクロソフト社「復元と復旧の概要(SQL Server)」
http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ms191253.aspx

5.2 Exchange Serverのリストア

Exchange Server のリストアは、「Windows SBS Console」から実行します。

●本手順は SBS2008-01 で行います。

1	「スタート」→「管理ツール」→「Windows SBS Console」をクリックします。	
2	「Windows SBS Console」画面が表示されます。「バックアップおよびサーバー記憶域」タブをクリックします。「バックアップ」タブ→右ペインの「バックアップからサーバーデータを復元する」をクリックします。	
3	「Windows Server バックアップ」画面が表示されます。右ペインの「回復...」をクリックします。	

4	「はじめに」画面が表示されます。「このサーバー」を選択します。 「次へ」をクリックします。	
5	「バックアップの日付の選択」画面が表示されます。バックアップの日付と時刻を選択します。 「次へ」をクリックします。	
6	「回復の種類の選択」画面が表示されます。「アプリケーション」を選択します。 「次へ」をクリックします。	
7	「お待ちください…」画面が表示されます。	

8	「アプリケーションの選択」画面が表示されます。「アプリケーション」の中から「Exchange」をポイントします。 「次へ」をクリックします。 ※アプリケーションデータベースのロールフォワードを行わない場合は、「アプリケーション データベースのロールフォワード回復を実行しない」にチェックを入れてください。	
9	「回復オプションの指定」画面が表示されます。「アプリケーション データの回復方法を選択してください」の「元の場所に回復する」を選択します。 「次へ」をクリックします。	
10	「確認」画面が表示されます。 「回復」をクリックします。	
11	「回復の進行状況」画面が表示されます。リストアが完了すると、「状態 コンポーネントの復元が完了しました。」が表示されます。 「閉じる」をクリックします。	

以上で、Exchange Server のリストアが完了します。

5.3 Windows SharePoint Servicesのリストア

Windows SharePoint Services のリストアは、「Windows SBS Console」から実行します。

●本手順は SBS2008-01 で行います。

1	「スタート」→「管理ツール」→「Windows SBS Console」をクリックします。	
2	「Windows SBS Console」画面が表示されます。「バックアップおよびサーバー記憶域」タブをクリックします。「バックアップ」タブ→右ペインの「バックアップからサーバーデータを復元する」をクリックします。	
3	「Windows Server バックアップ」画面が表示されます。右ペインの「回復...」をクリックします。	

4	「はじめに」画面が表示されます。「このサーバー」を選択します。 「次へ」をクリックします。	
5	「バックアップの日付の選択」画面が表示されます。バックアップの日付と時刻を選択します。 「次へ」をクリックします。	
6	「回復の種類の選択」画面が表示されます。「アプリケーション」を選択します。 「次へ」をクリックします。	
7	「お待ちください…」画面が表示されます。	

8	「アプリケーションの選択」画面が表示されます。「アプリケーション」の中から「Windows Sharepoint Services」をポイントします。 「次へ」をクリックします。	
9	「回復オプションの指定」画面が表示されます。「アプリケーション データの回復方法を選択してください」の「元の場所に回復する」を選択します。 「次へ」をクリックします。	
10	「確認」画面が表示されます。 「回復」をクリックします。	
11	「回復の進行状況」画面が表示されます。リストアが完了すると、「状態 コンポーネントの復元が完了しました。」が表示されます。 「閉じる」をクリックします。	

以上で、Windows SharePoint Services のリストアが完了します。

おわりに

本書では、富士通 PC サーバ PRIMERGY に、Windows Small Business Server 2008 を導入する方法を紹介しました。Windows Small Business Server 2008 に含まれるコンポーネントと、富士通 PC サーバ PRIMERGY 標準添付ソフトを組み合わせることで、安心かつ早急に IT インフラを構築できます。

富士通 PC サーバ PRIMERGY につきましては、以下の技術情報を参照願います。

・PC サーバ PRIMERGY
http://primeserver.fujitsu.com/primergy/

・PC サーバ PRIMERGY 機種比較表
http://primeserver.fujitsu.com/primergy/catalog/select-spec/

・サーバ選定ガイド
http://primeserver.fujitsu.com/primergy/technical/select-model/

富士通 PC サーバ PRIMERGY のお問い合わせ先。

・PC サーバ PRIMERGY(プライマジー)のお問い合わせ
http://primeserver.fujitsu.com/primergy/contact/